

健康部

概要	VII-1
沿革	VII-1
人口動態の動向	VII-1
保健所運営協議会	VII-4
安心の地域医療検討委員会	VII-4
地域救急医療対策協議会	VII-7
各種統計・報告	VII-8
免許の申請・書き換え交付状況	VII-9
病院・診療所立入検査	VII-10
衛生検査所立入検査	VII-11
医務	VII-11
「1日看護体験」の実施	VII-12
献血事業	VII-12
骨髄バンク事業推進	VII-13
応急診療所事業	VII-13
歯科医療センター事業	VII-14
学生実習	VII-15
母子保健事業	VII-16
予防接種事業	VII-22
成人保健事業	VII-25
栄養指導事業	VII-33
食育推進ネットワーク事業	VII-34
三重北勢健康増進センター事業	VII-35
食品衛生	VII-37
獣医務衛生	VIII-42
生活衛生	VII-44
薬務	VII-45
結核対策	VII-47
地域精神保健福祉対策	VII-51
難病対策	VII-59
感染症対策	VII-62
エイズ対策	VII-65
医療費助成	VII-66
食肉検査	VII-67
試験検査	VII-68
衛生検査	VII-69
国民健康保険	VII-72
後期高齢者医療制度	VII-76
国民年金	VII-77

概 要

四日市市は三重県の東北部に位置し、西は鈴鹿連峰、東は伊勢湾に面して北勢の中心を占めています。面積は、205.58k m²。

平成 19 年 10 月 21 日に保健所政令市に関する政令が公布され、保健所の設置が承認されました。所管区域は、本市の行政区域であり、これまで市が行ってきた母子保健、成人保健、老人保健などの業務に加え、三重県が行ってきた精神保健、難病、感染症、結核、食品衛生、医務、薬務、生活衛生などの、より専門的な業務を担当することとなりました。それにより医療・福祉・教育などと連携した総合的な保健衛生行政を効果的に推進し、市民のニーズに応じたきめ細かい保健衛生サービスができることとなりました。

沿 革

年 月 日	事 項
	【主な経緯】
平成 17 年 2 月 7 日	楠町との合併により、中核市要件を満たす
平成 17 年 11 月 22 日	市長が 20 年 4 月の保健所政令市移行を目指すことを表明
平成 19 年 10 月 21 日	政令公布 保健所政令市の指定に関する政令が公布され、保健所の設置が承認
平成 20 年 4 月 1 日	保健所政令市移行に伴う機構改革により健康部が創設され保健所業務を所管する。
平成 21 年 9 月 24 日	保健所事務部門を県四日市庁舎より四日市市総合会館へ移設。 機構改革組織変更により、食肉衛生検査所を保健所組織へ統合し、食品衛生検査所とする。

人口動態の動向

1) 人口動態件数及び率 (平成 20・21・22 年確定数)

人口：10月1日現在

年 次	人口 (人)	出 生		死 亡		乳 児 死 亡		新 生 児 死 亡	
		数 (人)	率 (人口千対)	数 (人)	率 (人口千対)	数 (人)	率 (出生千対)	数 (人)	率 (出生千対)
平成 20 年	314,805	2,831	9.2	2,586	8.4	13	4.6	6	2.1
平成 21 年	314,577	2,775	9.0	2,404	7.8	8	2.9	3	1.1
平成 22 年	314,393	2,768	9.0	2,764	9.0	6	2.2	2	0.7

年次	死産		周産期死亡		婚姻		離婚		合計特殊出生率 ※1
	数 (人)	率 (出産千対)	数 (人)	率 (出産千対)	数 (件)	率 (人口千対)	数 (件)	率 (人口千対)	
平成 20 年	66	22.8	14	4.9	1,924	6.3	594	1.93	1.40
平成 21 年	76	26.7	10	3.6	1,868	6.1	601	2.0	1.42
平成 22 年	61	21.6	10	3.6	1,826	5.9	608	2.0	1.47

※1：合計特殊出生率とは、女子の年齢別出生率の合計で1人の女子がその年次の年齢別出生率で一
生の間に生むとした時のこども数を表します。

$$\text{合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生率}}{\text{年齢別女子人口}} \right\} \text{ 15歳から49歳までの合計}$$

2) 主要死因別死亡者数・年齢調整死亡率

平成 22 年確定数

	男 (人)	女 (人)	計 (人)	割合 (%)	年齢調整死亡率 (人口 10 万対) ※1
全死因	1,466	1,298	2,764	100	418.16
結核	3	2	5	0.2	0.53
悪性新生物	491	302	793	28.7	133.31
糖尿病	25	18	43	1.6	7.18
高血圧性疾患	6	8	14	0.5	1.70
心疾患	225	236	461	16.7	65.76
脳血管疾患	129	136	265	9.6	36.64
大動脈瘤及びび解離	22	22	44	1.6	7.52
肺炎	127	106	233	8.4	28.28
慢性閉塞性肺疾患	32	10	42	1.5	5.50
肝疾患	30	13	43	1.6	7.91
腎不全	26	28	54	2.0	6.75
老衰	40	129	169	6.1	16.36
不慮の事故	57	45	102	3.7	17.09
自殺	32	12	44	1.6	11.98
交通事故	9	11	20	0.7	4.17
その他	212	220	432	15.6	

(※小数点第2位で四捨五入しているためパーセントの合計が100.0%にならない場合があります)

※1：年間調整死亡率とは、年齢構成が著しく異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏する死因別死亡率などについて、その年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いるもの。これを標準化死亡率という場合もあります。基準人口としては昭和 60 年モデル人口を用いています。

$$\text{年齢調整死亡率 (旧訂正死亡率)} = \frac{\left\{ \left[\begin{array}{l} \text{観察集団の各年齢} \\ \text{(年齢階級)の死亡率} \end{array} \right] \times \left[\begin{array}{l} \text{基準人口のその年齢} \\ \text{(年齢階級)の人口} \end{array} \right] \right\} \text{の各年齢 (年齢階級) の総和}}{\text{基準人口の総和}}$$

3) 悪性新生物（がん）部位別死亡者数

平成 22 年確定数

部位別	男（人）	女（人）	計（人）
食道	19	4	23
胃	64	40	104
結腸	31	33	64
直腸 S 状結腸移行部及び直腸	16	9	25
肝及び肝内胆管	49	32	81
膵	39	27	66
気管、気管支及び肺	153	35	188
乳房	—	23	23
子宮	—	14	14
白血病	4	4	8
その他	116	81	197
合計	491	302	793

4) 低出生体重児数

平成 22 年確定数

	男（人）	女（人）	計（人）
総数（人）	144	142	286
1.0 kg未満	5	2	7
1.0 kg以上～1.5 kg未満	6	5	11
1.5 kg以上～2.0 kg未満	26	20	46
2.0 kg以上～2.5 kg未満	107	115	222

保健所運営協議会

地域保健及び保健所の運営に関する事項について検討を行い、今後の保健所の運営に反映していく目的で協議会を開催しました。

回数	開催日	議 事
第1回	平成23年7月8日	1. 平成22年度 保健所事業実績報告について 2. 平成22年度 「健康づくり計画」の進捗管理について 3. ヘルスプラザの今後のあり方について
第2回	平成24年3月30日	1. 平成24年度 四日市市保健所事業について 2. 健康づくり計画の見直しについて 3. その他

安心の地域医療検討委員会

1) 四日市市安心の地域医療検討委員会

在宅医療を中心とした地域医療の推進について積極的に取り組むべく検討を行いました。

回数	開催日	議 事
第1回	平成23年6月13日	1. 議事 (1) 平成23年度安心の地域医療検討委員会及び部会等の組織編制について (2) 「四日市市地域医療推進計画」の策定について (3) 平成23年度実施事業について ○訪問看護師養成事業 ○在宅医療啓発活動事業 ○訪問看護ステーション設立補助関係 ○在宅介護支援センターへ医療職の配置 ○平成23年度緩和ケアに携わる医師の研修
第2回	平成23年11月14日	1. 議事 (1) 医療と介護の連携推進部会、在宅緩和ケア推進部会、市民啓発推進部会、訪問看護の充実ワーキングの開催結果報告 (2) 四日市市在宅医療推進計画の検討
第3回	平成24年3月26日	1. 議事 (1) 地域医療推進に向けての関係者行動指針（案） (2) 平成24年度安心の地域医療検討委員会及び部会等の組織編制について (3) 平成23年度事業実施について（報告）

2) 在宅緩和ケア推進部会

がん患者及びその家族等が安心して在宅医療に移行し生活することができるサービス提供体制等の構築を目指すために安心の地域医療検討委員会の部会として検討しました。

回数	開催日	議 事
第1回	平成23年7月14日	1. 議事 (1) 緩和ケアの推進 (2) 訪問看護の充実
第2回	平成23年8月11日	取り組みの検討
第3回	平成23年9月27日	取り組みまとめ

3) 医療と介護の連携推進部会

医療・福祉の連携をより推進するために安心の地域医療検討委員会の部会として医療と介護の連携推進部会を設置し検討しました。

回数	開催日	議 事
第1回	平成23年6月29日	1. 議事 (1) 課題提起と現状 ・ 医療と介護の連携 ・ 在宅及び互いの職種を知る取り組み ・ 患者家族等を支える環境づくり
第2回	平成23年8月17日	取り組みの検討
第3回	平成23年9月13日	取り組みまとめ

4) 市民啓発推進部会

市民の在宅医療や緩和ケアなどについての理解を深めるため、安心の地域医療検討委員会の部会として市民啓発推進部会を設置し市民が必要とする情報及びその情報の提供方法について検討しました。

回数	開催日	議 事
第1回	平成23年8月3日	1. 議事 情報提供及び啓発支援の方向について
第2回	平成23年10月5日	取り組みの検討
第3回	平成23年10月12日	取り組みまとめ

5) 訪問看護の充実ワーキング

訪問看護の充実を図るため、安心の地域医療検討委員会のワーキングとして訪問看護の充実ワーキングを設置し訪問看護師又は訪問看護ステーションへの支援策を検討しました。

回数	開催日	議 事
第1回	平成23年7月29日	1. 議事 (1) 訪問看護師又は訪問看護ステーションに対する支援策
第2回	平成23年9月6日	取り組みの検討
第3回	平成23年10月7日	取り組みまとめ

6) 訪問看護師養成事業

訪問看護ステーションの慢性的な看護師不足を解消するため、現役看護師や潜在看護師に向けて訪問看護について学習するための講座を開催しました。

(1) 開催日・場所

平成23年9月6日～平成23年12月22日 四日市看護医療大学

(2) 参加者

全日程受講生	14名
選択科目受講生	21名
計	35名

7) 在宅医療啓発活動補助事業

在宅医療の啓発を行う市民活動について経費の一部を補助しました。

事業	主催者	講演日・会場・参加者数	講師
自分の家で暮らせる在宅医療、訪問診療	高齢者「サロン尾平」	平成23年9月17日 尾平町集落センター 参加者約 70名	みえ医療福祉生協いくわ診療所 加藤文人氏
在宅医療のカギを握る「訪問看護」－質問形式の講座－	高齢社会をよくする女性の会よっかいちグループ	平成23年11月20日 本町プラザ2階第1会議室 参加者 37名	北地域包括支援センターセンター長 鈴木廣子氏 皇學館大学社会福祉学部 医療ソーシャルワーカー論 講師 片岡千都子氏
講演とシンポジウム	いすず会グループ	平成23年11月27日 じばさん三重6階ホール 参加者約 200名	小笠原内科 小笠原文雄医師 市立四日市病院 副院長 宮内正之氏 健康づくり課長 山下智香 保健師
生活に寄り添う在宅医療の実現を目指して	明日の地域医療を考える住民の会・あした葉	平成24年2月18日 文化会館第3ホール 参加者約 180名	三つ葉在宅クリニック 船木良真氏 いしが在宅ケアクリニック 石賀丈士氏

8) 市民向け講演会

四日市市の在宅医療をひろく市民へ啓発するために講演会等を開催しました。

回数	講演日・会場	テーマ及び講師
第1回	平成24年1月14日 じばさん三重ホール 参加者約300名	「死にざまこそ人生『ありがとう』と言って逝くための10のヒント」 金城学院大学 学長 柏木哲夫氏
第2回	平成24年1月19日 じばさん三重2階	「住み慣れた自宅での療養生活を考える1～市立四日市病院退院後に自宅で療養することを選択した事例を通して～」

	<p>研修室 6 参加者 104 名</p>	<p>市立四日市病院 副院長 宮内正之氏 医師 鎗田哲暢氏 看護師 横山裕子氏 医療ソーシャルワーカー 吉川晴子氏 あこず内科循環器科クリニック 院長 加藤尚久氏 くぬぎの木在宅介護サービスセンター 介護支援専門員 加藤直子氏 四日市医師会訪問看護ステーション 看護師 赤塚さとみ氏</p>
第 3 回	<p>平成 24 年 2 月 19 日 三重県立総合医療 センター 7 階講堂 参加者約 70 名</p>	<p>「住み慣れた自宅での療養生活を考える 2～三重県立総合医療センター退院後に自宅で療養することを選択した事例を通して～」 三重県立総合医療センター 産婦人科診療部長 谷口晴記氏 がん性疼痛認定看護師 川瀬佐登美氏 地域連携室 多田羅紀子氏 坂倉ペインクリニック在宅診療所 院長 坂倉究氏 介護支援専門員 瀬川順子氏 訪問看護リハビリステーションあすか 看護師 小野敦世氏</p>
第 4 回	<p>平成 24 年 3 月 27 日 四日市社会保険病院 健康管理センター 4 階多目的ホール 参加者約 120 名</p>	<p>「住み慣れた自宅での療養生活を考える 3～四日市社会保険病院退院後に自宅で療養することを選択した事例を通して～」 四日市社会保険病院 副院長 木村光政氏 医師 佐藤良子氏 看護師 藤井まみ子氏 医療ソーシャルワーカー 辻恵子氏 いしが在宅ケアクリニック 院長 石賀丈士氏 看護師 川口真由氏 善快堂薬局 薬剤師 亀井武司氏 プロセスケア 介護支援専門員 浅野幸広氏 訪問看護師小林千奈美氏</p>

地域救急医療対策協議会

1) 四日市地域救急医療対策協議会

四日市地域内の救急搬送・救急医療体制の充実強化を図るため、関係機関等が協議し、地域の実情に即した体制の整備の推進を図るとともに、感染症などの健康危機事例発生時に迅速かつ的確に対処できるよう、平常時からの連携体制を確保することを目的として協議会を開催しました。

回数	開催日	議 事
第 1 回	平成 23 年 6 月 23 日	1.消防関連承認事項について 2.救急現場とアルコールについて 3.三重県周産期医療体制査煮付いて

第2回	平成24年2月9日	1.協議会関連報告 2.メディカルコントロール及び救急医療受入状況報告 3.国県関連報告 4.消防関連承認事項 5.災害医療について
-----	-----------	--

2) 四日市地域の救急医療講演会

四日市地域の救急医療の現状と課題をひろく市民の方に知っていただくために講演会を開催しました。

開催日	議 事
平成23年11月15日	「高齢化社会を元気に過ごす」 みたき総合病院特別顧問 伊藤八峯氏 四日市市文化会館第2ホール 参加者約600名 救急医療関連展示コーナー

3) 災害医療活動報告会

四日市地域の関係機関が行った東日本大震災に伴う被災地支援活動報告を通じて、関係機関同士の情報共有と今後の災害医療の取組みに役立てることを目的に報告会を開催しました。

開催日	議 事
平成23年10月2日	～東日本大震災の支援活動を経験して～ 報告機関：四日市市消防本部、四日市南警察署、四日市歯科医師会、四日市市保健所、四日市薬剤師会、小山田記念温泉病院・主体会病院、四日市社会保険病院、市立四日市病院、三重県立総合医療センター（報告順） 四日市市総合会館8F視聴覚室 参加者72名 活動状況展示コーナー

各種統計・報告

1) 母体保護統計

母体保護に関する諸施策推進のために、不妊手術及び人口妊娠中絶の実施状況を把握しました。

人工妊娠中絶届出数（年齢別・在胎週別）（単位：人）

平成23年度

在胎週別 \ 年齢別	総数	20歳未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～	不詳
		総数	599	68	111	109	129	131	45	
満7週以内	391	32	75	73	79	95	32	5	0	0
8～11週以内	174	28	32	28	43	33	10	0	0	0

12～15 週以内	15	3	2	3	5	1	0	1	0	0
16～19 週以内	18	5	2	5	2	2	2	0	0	0
20～21 週以内	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0

2) 衛生行政報告例

国及び地方公共団体の衛生行政運営のための基礎資料を得ることを目的に、衛生行政の実態を把握しました。

3) 地域保健・健康増進事業報告

地域住民の健康の保持及び増進をめざし、地域の特性に応じた保健施策の効率的、効果的な推進を行っていくための基礎資料を得ることを目的として実態を把握しました。

4) 病院報告

医療法に基づいて病院（療養型病床群を有する診療所を含む）における患者の利用状況と病院の従事者の状況を把握しました。

5) 医療施設調査

医療施設の分布及びその機能の実態を明らかにするために、3年毎に静態調査、月毎に動態調査を実施し把握しました。

免許の申請、書き換え交付状況

医師、歯科医師その他の保健医療従事者の免許申請等の受理、免許証の交付を行いました。

平成 23 年度

	新規申請 (件)	書き換え (件)	再交付 (件)	抹消 (件)	計 (件)
医 師	15	8	3	0	26
歯 科 医 師	2	3	0	1	6
保 健 師	50	21	1	0	72
助 産 師	15	8	0	0	23
看 護 師	115	104	9	0	228
准 看 護 師	10	16(3)	8(1)	0	34(4)
歯 科 技 工 士	2	0	0	0	2
栄 養 士	39	18	1	0	58
臨 床 検 査 技 師	7	5	0	0	12
衛 生 検 査 技 師	0	0	0	0	0
診 療 放 射 線 技 師	11	3	1	0	15

理学療法士	16	5	1	0	22
作業療法士	6	5	0	0	11
薬剤師	2	12	0	2	16
管理栄養士	20	7	1	0	28
視能訓練士	3	0	0	0	3
合計	313	215	25	3	556

() 内の数字は県外免許の数

病院・診療所立入検査

医療法等関係法令に基づき、医療の安全の確保のために、市内の全病院及び診療所に対して、立入検査を行い、法令等に規定された人員の配置や構造設備に関する検査、医療従事者向け各種マニュアル整備等の確認をし、指導助言を行いました。

1) 病院・診療所立入検査の状況

(1) 立入実施施設数

年度	病院（毎年実施）			診療所（5年に1度実施）		
	対象数 (件)	実施数 (件)	実施率 (%)	対象数 (件)	実施数 (件)	実施率 (%)
平成23年度	13	13	100.0	※406	89	21.9
平成22年度	13	13	100.0	※403	88	21.8
平成21年度	13	13	100.0	※404	83	20.5

(※開設施設中、休止施設のぞく)

(2) 病院立入実施結果（指示・指摘内容）

年 度	平成23年度	
	不備件数 (件)	不備率 (%)
医療安全管理体制の整備	1	7.7
医療従事者に対する健康診断の実施	10	76.9
医療従事者の不足	0	0
その他	6	46.2

(3) 診療所立入実施結果（指示・指摘内容）

年 度	平成 23 年度	
	不備件数（件）	不備率（％）
医療安全管理体制の整備	3	3.4
医療従事者に対する健康診断の実施	11	12.4
業務委託	3	3.4

衛生検査所立入検査

臨床検査技師等に関する法律に基づき、衛生検査所に立ち入り、法令等に規定された人員の配置や構造設備に関する検査を行いました。

医務

医療法等関係法令に基づき、医療施設の開設・内容変更・廃止等の事務及び構造設備の適正管理等について確認検査を行いました。

1) 市内医務施設数（ヶ所）

	病院	医科診療所	歯科診療所	歯科技工所	助産所	施術所	合計
平成 23 年度	13	262	155	41	4	237	712
平成 22 年度	13	258	154	41	4	224	694
平成 21 年度	13	252	156	41	4	215	681

2) 確認検査と開設・廃止状況（件数）

年 度	確認検査		開設許可		開設届		廃止		使用許可	
	H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22
病院	5	3	0	0	0	0	0	0	23	27
医科診療所	18	18	7	6	12	12	8	6	0	0
歯科診療所	10	8	2	0	3	5	2	5	0	0
歯科技工所	0	1	-	-	0	1	0	1	-	-
助産所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施術所	15	18	-	-	16	19	3	11	-	-
衛生検査所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総数	48	48	9	6	31	37	13	23	23	27

3) 市内病院及び許可病床数（※医科診療所の療養病床：33床）

平成24年3月末現在

	許可病床数					
	一般	療養	精神	結核	感染	総数
三重県立総合医療センター	442				4	446
市立四日市病院	566				2	568
四日市社会保険病院	235					235
みたき総合病院	86	88				174
主体会病院	105	123				228
小山田記念温泉病院	222	168				390
二宮病院		38				38
富田浜病院	60	85				145
総合心療センターひなが			555			555
山中胃腸科病院	93					93
石田胃腸科病院	38					38
水沢病院		38	196			234
四日市青洲病院		30				30
計	1,847	570	751		6	3,174

「1日看護体験」の実施

高校生が夏休みの1日を、医療機関において看護業務を体験することにより、看護の実際を理解し、看護職志望を促す機会を提供しました。

11校 延べ104人参加

献血事業

市内の各種団体、献血会、事業所、学校等の協力を得て、献血意識の普及・啓発に努めるとともに、多くの市民に献血にご協力をいただきました。

(1) 四日市市献血推進の日（夏、冬）

実施月日：平成23年7月29日、平成24年1月29日

実施場所：近鉄四日市駅東口・シャンテリア広場

内容：啓発資材の配付及び街頭献血の実施。

(2) クリスマス献血キャンペーン

実施月日：平成23年12月25日

実施場所：(株)日永カヨーショッピングセンター

(3) 四日市献血ルーム「サンセリテ」

三重県赤十字血液センターが近鉄四日市駅前「スターアイランド」4Fにて常設の献血ルーム

を開設しています。

受付時間

- ・全血献血 10時～11時45分、13時～17時30分
- ・成分献血 10時～11時、13時～17時

(4) 献血状況

①献血イベントの状況

	推進の日(夏)	クリスマス献血	推進の日(冬)
献血者数(人)	55	54	33
啓発参加者数(人)	82	29	63

②市内献血バス及び献血ルーム「サンセリテ」の状況

	平成23年度			平成22年度		
	献血協力者実績(人)			献血協力者実績(人)		
	成分献血	200ml献血	400ml献血	成分献血	200ml献血	400ml献血
献血バス	—	—	5,355	—	—	5,890
サンセリテ	11,701	0	1,960	12,386	0	1,698
合計	11,701	0	7,315	12,386	0	7,588

骨髄バンク事業推進

献血イベントに併せ、意識の普及啓発に努めるとともに、骨髄提供希望者(ドナー)の登録受付を実施しました。

(1) 骨髄バンクの普及啓発及びドナー受付窓口の設置

- ・平成23年7月29日 近鉄四日市駅東口・シャンテリア広場で実施 ドナー登録受付：4人
- ・平成23年12月25日 (株)日永カヨーショッピングセンターで実施 ドナー登録受付：5人
- ・平成24年1月29日 近鉄四日市駅東口・シャンテリア広場で実施 ドナー登録受付：2人
- ・四日市献血ルーム「サンセリテ」において実施(平成23年度) ドナー登録受付：48人

応急診療所事業

四日市市応急診療所において、休日における市民の一次救急医療を行いました。なお平成23年度より1月1日も診療することとなりました。

①診療日及び診療時間

日曜日、祝(休)日、12月31日、1月1日、2日、3日
午前10時～午後4時

②診療科目

内科、小児科、耳鼻咽喉科(耳鼻咽喉科は日曜日のみ)

受診状況

年度	内科 (人)	小児科 (人)	耳鼻科 (人)	計 (人)	一日平均 (人)
					() は診療日数
平成 23 年度	1,177	1,928	287	3,392	49.15 (69 日)
平成 22 年度	930	1,935	270	3,135	45.43 (69 日)
平成 21 年度 (うち夜間) ※	1,725 (276)	2,998 (404)	267 (0)	4,990 (680)	72.31 (69 日) 29.56 (23 日)

※平成 21 年度の「うち夜間」については新型インフルエンザ対策として臨時的に夜間開設を行った際の受診者数。

回	開催日	議 事
第 1 回	平成 23 年 11 月 1 日	1. 議事 (1) 応急診療所の運営状況について (2) 年末年始の開設について (1 月 1 日の体制について) (3) レセプトコンピューターについて

歯科医療センター事業

四日市市歯科医療センターにおいて、障害者に対する歯科診療及び年末年始における応急の歯科診療を行いました。なお平成 23 年度より 1 月 1 日も診療することとなりました。

①診療日及び診療時間

応急診療

年末年始 12 月 30 日、12 月 31 日、1 月 1 日、1 月 2 日
(午前 9 時～午前 11 時 30 分)

障害者(児)診療(予約制)

火、木曜日(午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分)
月 2 回日曜日(午前 9 時 30 分～午後 0 時 30 分)
※祝・休日と 12 月 28 日～1 月 3 日を除く。

受診状況

年度	休日診療			障害者診療				※障害者診療日に 応急患者の受 入件数
	診療実 日数 (日)	受診 者数 (人)	1 日平 均(人)	診療実 日数 (日)	受診者数(人)		一日平 均(人)	
					延数	新患再掲		
平成 23 年度	4	49	12.25	90	1,157	416	12.9	7 人 (7 日)
平成 22 年度	4	29	7.25	90	1,237	377	13.7	4 人 (4 日)
平成 21 年度	4	53	13.35	90	1,218	328	13.5	6 人 (6 日)

※障害者診療日(日曜日等)に応急処置希望者の受診があった場合、対応可能な範囲で診療を実施。

回	開催日	議 事
第1回	平成23年8月25日	1. 議事 (1) 四日市市外の患者受け入れ体制について (2) 「歯ートネット四日市」について

学生実習

地域保健活動の中核として、保健・医療・福祉分野に従事する人材育成のため実習受け入れを行いました。

学校名	実習生数	実習期間	実習内容
三重大学医学部	計11人 (1年生6人、2年生5人)	1・2年生合同 7月13日 1年生：9月14日、16日、 22日 2年生：11月8日 (別日1日市内医療機関見学 実習)	※保健所事業について説明 1年生：お達者クラブ参加 者インタビュー 2年生：市内医療機関見学 実習、健康教育実施
四日市看護医療大学	計83人	1)5月9日～7月1日(21人) (3グループに分かれ各7日間) 2)7月20日(1日間)(8人) 7月21日(1日間)(8人) 3)9月22日(1日間)(25人) 11月7日～ ^{H24} 2月2日 (5グループに分かれ各7日間) ^{H24} 3月26日・27日(2日間) (21人)	各種保健事業見学、健康教育 実施等 各種保健事業見学 保健所実習事前集中講義 各種保健事業見学、健康教育 実施等 保健所実習事前集中講義
四日市医師会看護専門学校	計99人	1)6月2日(45人) 2)6月27日～7月15日(12人) (4グループに分かれ各2日間) 3) ^{H24} 3月15日～16日(42人) (3グループに分かれ各半日)	臨地実習リエンテーション 各種保健事業見学 お達者クラブ見学
日本大学生物資源科学部獣医学科	1人	8月3日～8月4日	保健所事業リエンテーション、関係 施設見学等
修文大学(管理栄養士)	2人	6月20日～6～24日	1歳6ヶ月児・3歳児健診・ 体力測定・健康づくりよっ かいち 2011・お達者クラ ブ・育児相談・給食施設ネ ットワーク研修会
椋山女学園大学(管理栄養士)	1人		
東海学園大学(管理栄養士)	1人		

名古屋経済大学（管理栄養士）	2人		
鈴鹿医療科学大学（理学療法士）	1人	2月13日～2月16日	包括教室・障害リハ見学・お達者クラブ

母子保健事業

1) 安心して出産するために

(1) 母子健康手帳の交付

母子健康手帳を交付し、出産までの経緯や児の成長を記録することで、母性並びに乳幼児の健康の保持及び増進を図りました。

交付者数（人）

平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
3,132	3,082	3,054

(2) 妊婦一般健康診査

妊婦を対象に、健康診査（医療機関に委託）を実施して、安全な分娩と健康な児の出生を支援しました。

受診者数（人）

年度	1～5回目		6～14回目	
	妊娠届出者数	総受診者数	妊娠届出者数	総受診者数
平成 23 年度	3,019	14,091	3,019	20,192
平成 22 年度	2,858	14,529	2,858	21,041
平成 21 年度	2,932	14,530	2,932	17,228

(3) 育児学級「パパママ教室」

妊婦とその家族を対象に、妊娠・育児に関して模擬体験を交えた具体的な指導を行うことにより、母性父性の健全な育成を行いました。年間16回開催しました。

参加者数（人）

年度	妊婦	家族	合計
平成 23 年度	221	202	423
平成 22 年度	233	220	453
平成 21 年度	144	112	256

2) 児の発達、成長の確認のために

(1) 乳児一般健康診査

4か月児、10か月児を対象に、健康診査（医療機関に委託）を実施し、成長の確認とともに、障害を早期に発見して育児を支援し、適切なフォローを実施しました。（各1回実施）

受診者数（人）

年度	4か月児			10か月児		
	対象者数	受診者数	受診率（%）	対象者数	受診者数	受診率（%）
平成23年度	2,880	2,761	95.9	2,884	2,614	90.6
平成22年度	2,827	2,723	96.3	2,891	2,631	91.0
平成21年度	2,884	2,746	95.2	2,911	2,582	88.7

(2) 1歳6か月児健康診査

1歳6か月児を対象に、健康診査を実施し、心身障害の進行を未然に防止するとともに、生活習慣の自立、むし歯の予防、栄養、その他育児に関する指導を行い、幼児の健康の保持及び増進を図りました。年間66回開催しました。（日曜健診は2か月に1回実施）

受診者数（人）

年度	対象者数	受診者数	受診者のうち		受診率（%）	日曜健診受診状況（再掲）		
			経過観察者数	経過観察率（%）		予約者数	受診者数	利用率（%）
平成23年度	2,793	2,699	462	17.1	96.6	159	152	5.6
平成22年度	2,855	2,772	535	19.3	97.1	176	163	5.9
平成21年度	2,805	2,669	500	18.7	95.2	139	132	4.9

(3) 3歳児健康診査

3歳児を対象に、健康診査を実施し、心身障害の進行を未然に防止するとともに、生活習慣の自立、むし歯の予防、栄養、その他育児に関する指導を行い、幼児の健康の保持及び増進を図りました。年間42回開催しました。（日曜健診は2か月に1回実施）

受診者数（人）

年度	対象者数	受診者数	受診者のうち		受診率（%）	日曜健診受診状況（再掲）		
			経過観察者数	経過観察率（%）		予約者数	受診者数	利用率（%）
平成23年度	2,797	2,587	232	9.0	92.5	254	240	9.3
平成22年度	2,906	2,717	172	6.3	93.5	269	250	9.2
平成21年度	2,863	2,660	239	9.0	92.9	260	238	8.9

(4) 乳幼児事後継続指導心理発達相談

健診や相談後にその内容に伴い、児と保護者を対象に、心理発達相談員による心身の発達・育児不安等の継続指導を行い、児の健康増進、保護者への育児支援を図りました。必要な場合には専門機関の紹介を行いました。

相談者数(人)

年度	心身の発達相談数	育児不安相談数	合計
平成 23 年度	401	43	444
平成 22 年度	538	42	580
平成 21 年度	511	47	558

(5) 親子教室「ラッコ」、「イルカ」

各種健診、相談において、発達遅滞・発達障害や育児不安が疑われる児と保護者を対象に、定期的な集団指導を行うことにより、児の発達を促すための適切な関わり方を学ぶ機会を設け、育児不安の解消を図りました。

①親子教室「ラッコ」参加者数(人)：1歳6か月から2歳6か月頃の児。年間12回開催。

年度	実人員		延人員	
	対象者	(同伴者)	対象者	(同伴者)
平成 23 年度	19	(21)	65	(67)
平成 22 年度	41	(41)	103	(100)
平成 21 年度	38	(37)	97	(93)

②親子教室「イルカ」参加者数(人)：2歳6か月以上の幼児。年間12回開催。

年度	実人員		延人員	
	対象者	(同伴者)	対象者	(同伴者)
平成 23 年度	25	(25)	72	(72)
平成 22 年度	35	(39)	80	(89)
平成 21 年度	39	(39)	102	(106)

3) 育児支援

(1) 育児相談

乳幼児を対象に、発育・発達、育児、栄養等に関する相談・指導を行いました。年間22回開催しました。

相談者数(人)

年度	実人員（人）			延人員（人）		
	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計
平成 23 年度	304	316	620	1,014	815	1,829
平成 22 年度	235	218	453	354	748	1,102
平成 21 年度	211	152	363	484	483	967

（２）妊産婦・乳幼児電話・来所相談

妊産婦または乳幼児の保護者を対象に、母性または乳幼児の健康保持及び増進のために、電話または来所により、随時、必要な指導助言を行いました。

相談者数（人）

年度	総数	相談状況内訳		
		来所相談	市民からの 電話相談 (希望者)	保健所から の電話での 働きかけ
平成 23 年度	14,628	639	6,548	7,441
平成 22 年度	16,990	900	7,434	8,656
平成 21 年度	9,896	961	3,305	5,630

（３）訪問指導

妊産婦訪問指導

若年妊産婦、訪問を希望する妊産婦または医療機関からの情報提供を受けた妊産婦を対象に、保健師や助産師が家庭訪問し、妊娠、出産、育児等を支援しました。

新生児訪問指導

訪問希望または医療機関からの情報提供を受けた新生児を対象に、保健師や助産師が家庭訪問し、新生児の発育、栄養、環境、疾病予防等を支援しました。

乳幼児訪問指導

乳児一般健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、育児相談、電話相談等のフォロー児を中心に日常生活における適切な育児指導を実施することにより、児の健全な発達を支援しました。

実施者数（人）

年度	妊婦		産婦		新生児		乳児	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
平成 23 年度	74	76	819	1,039	106	109	3,017	3,569
平成 22 年度	70	83	843	1,284	163	174	2,874	3,785
平成 21 年度	20	22	742	1,567	116	138	2,416	3,628

未熟児（※）		幼児		その他		合計	
実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
216	254	293	522	3	3	4,312	5,318
226	243	375	624	8	12	4,333	5,962
111	118	365	1,083	1	1	3,660	6,439

（※）未熟児人員は、新生児人員および乳児人員からの再掲

（４）こんにちは赤ちゃん訪問事業

おおむね生後４か月に達するまでの乳児がいる家庭を、保健師・助産師・看護師及び赤ちゃん訪問員が全戸訪問し、子育て支援に関する情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービスの提供に結びつけました。

実施者数（人）

年度	実人員	内 訳			
		保健所スタッフ		こんにちは赤ちゃん訪問員	
		実人員	継続支援者 （再掲）	実人員	継続支援者 （再掲）
平成 23 年度	2,816	541	140	2,275	452
平成 22 年度	2,727	557	240	2,170	517
平成 21 年度	2,224	446	215	1,778	434

（５）乳幼児食教室

乳幼児の保育者を対象に、乳幼児期の食生活の指導を通じて、児の健やかな成長を支援しました。年間３０回開催しました。

参加者数（人）

年度	前期（５～８か月児）	後期（９～１２か月児）	合計
平成 23 年度	433	248	681
平成 22 年度	460	270	730
平成 21 年度	392	273	665

4) 地域での子育て支援

(1) 他機関における子育て支援事業への支援

保育園、幼稚園、子育て支援センター、児童館など身近な育児の交流の場において、保健師が関係者や民生委員・児童委員などと連携し、育児支援を行い、育児不安の解消を図りました。

参加者数（人）

事業名	平成 23 年度			平成 22 年度			平成 21 年度		
	参加回数	利用者数	相談者数	参加回数	利用者数	相談者数	参加回数	利用者数	相談者数
保育園遊ぼう会	19	440	106	29	622	107	32	656	141
幼稚園遊ぶ会	8	281	45	21	766	74	21	701	71
子育て支援C (保育園併設型)	26	1,008	173	28	895	137	32	1,320	233
子育て支援C (単独型)	34	1,453	139	21	1,888	106	20	1,540	148
民生委員児童 委員主催等	23	1,869	295	25	1,547	291	25	1,358	304
四日市大学等 での講義	2	125	—	3	71	—	4	95	16
計	112	5,176	758	127	5,789	715	134	5,670	913

5) 子どもの歯を守るために

(1) 幼児歯みがき教室（歯ハハの教室）

2歳6か月から4歳未満の児と保護者を対象に、虫歯予防の啓発と指導を行い、乳歯・永久歯の健全な育成、保持を図りました。年間48回開催しました。

参加者数（人）

平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
1,338	958	579

(2) 妊婦歯科教室（デンタルマタニティスクール）

妊産婦（概ね妊娠16週～24週）を対象に、歯の自己管理、子どもの歯の特性の啓発、歯口清掃などを行い、健全な歯の育成を支援しました。年間12回開催しました。

参加者数（人）

平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
65	79	56

6) 情報提供

(1) 乳幼児事故予防対策

妊産婦、乳幼児と保護者を対象に、乳幼児の事故予防方法について情報提供、指導を行いました。教室は年間2回開催し、啓発を随時行いました。

参加者数 (人)

年度	参加者数	内訳			
		乳児同伴	幼児同伴	妊婦のみ	保護者
平成 23 年度	39	13	5	0	21
平成 22 年度	85	28	14	0	43
平成 21 年度	26	7	4	0	15

予防接種事業

1) 四日市市予防接種運営委員会

予防接種事業の円滑な運営及び予防接種事故の防止を図るため協議会を開催しました。

開催日	委員会・部会	議事
平成 23 年 5 月 31 日	四日市市予防接種運営委員会	平成 22 年度予防接種実績および平成 23 年度の定期および任意予防接種について
平成 23 年 8 月 9 日	第 1 回予防接種率向上部会	定期および任意予防接種について
平成 24 年 1 月 24 日	第 2 回予防接種率向上部会	定期および任意予防接種について
平成 24 年 2 月 28 日	第 3 回予防接種率向上部会	定期および任意予防接種について

2) 予防接種者数と接種率について

接種状況

		平成 23 年度		平成 22 年度		平成 21 年度	
		接種者数	接種率	接種者数	接種率	接種者数	接種率
三種混合 (ジフテリア、百日咳、破傷風)	1 期 1 回目	2,916	103.3%	2,860	102.3%	2,889	102.3%
	1 期 2 回目	2,954	104.6%	2,827	101.1%	2,905	102.9%
	1 期 3 回目	2,865	101.5%	2,843	101.7%	2,905	102.9%
	1 期 追加	2,750	98.4%	2,910	104.7%	2,744	96.4%
二種混合 (ジフテリア、破傷風) 乳児		2					
二種混合 (ジフテリア、破傷風) 学童		2,735	88.6%	2,606	81.1%	2,690	82.3%
ポリオ	1 回目	2,443	86.6%	2,664	95.0%	2,797	99.0%
	2 回目	2,181	77.3%	2,521	89.9%	2,580	91.4%
麻しん 風しん混合 (MR)	1 期	2,776	98.2%	2,792	100.5%	2,764	98.0%
	2 期	2,669	95.6%	2,814	96.6%	2,863	94.8%
	3 期	2,947	91.8%	2,994	91.7%	2,803	91.6%
	4 期	2,753	85.5%	2,564	83.4%	2,611	83.2%
麻しん	1 期	0		0		0	
	2 期	0		0		0	
	3 期	0		0		0	
	4 期	0		0		0	
風しん	1 期	0		1		0	
	2 期	0		1		0	
	3 期	1		0		1	
	4 期	2		6		3	
日本脳炎	1 期 1 回目	3,932	140.0%	3,815	127.8%	2,530	91.3%
	1 期 2 回目	3,822	136.4%	3,660	122.7%	2,403	86.7%
	1 期追加	3,555	119.5%	1,908	68.6%	1,988	68.4%
	2 期	1,140	36.2%	221	7.0%	521	16.8%
インフル エンザ	65 歳以上	35,568	53.1%	38,922	58.7%	32,813	50.4%
	60~64 歳	70	34.3%	127	60.5%	149	70.3%
合 計		78,081		79,056		70,959	

*平成 17 年 5 月末から厚生労働省の指導により、日本脳炎ワクチン接種の積極的勧奨中止。

*平成 23 年 5 月 20 日から厚生労働省の指導により、日本脳炎ワクチン 1 期接種の積極的勧奨を順次再開。平成 7 年 6 月 1 日～平成 19 年 4 月 1 日生まれの者は特例対象者として、6 か月以上 20 歳未満の間、日本脳炎予防接種が定期予防接種として接種可能となった。

3) 任意予防接種について

国の「ワクチン接種緊急促進事業実施要領」に基づき、子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン及び小児用肺炎球菌ワクチンの接種を実施しました。(平成23年2月より開始)

接種状況

		平成23年度		平成22年度 (平成23年2月1日 ～3月末実施分)	
		接種者数	延べ接種回数	接種者数	延べ接種回数
子宮頸がん 予防ワクチン	中学1年生 ～高校1年生	3,729	11,350	2,005	3,282
	高校2年生	409	2,217		
ヒブワクチン	生後2か月 ～5歳未満	6,561	13,131	3,367	3,486
小児用肺炎 球菌ワクチン	生後2か月 ～5歳未満	6,930	15,689	4,001	4,131
合 計		17,629	42,387	9,373	10,899

4) 結核対策について

接種状況

	平成23年度		平成22年度		平成21年度	
	接種者数	接種率	接種者数	接種率	接種者数	接種率
BCG	2,792	98.7%	2,722	95.6%	2,793	96.8%

5) 高齢者肺炎球菌ワクチン接種について

平成23年12月から、高齢者を対象に肺炎球菌ワクチンの接種にあたり、一人当たり3,000円の公費助成を実施しました。

接種状況

	平成23年度	
	接種者数	接種率
高齢者肺炎 球菌ワクチン	7,599	11.3%

成人保健事業

1) 健康管理のために

(1) 健康手帳の交付

自らの健康管理と維持、適切な医療受診の支援を行いました。

交付者数（人）

	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
40 歳～74 歳	2,081	2,043	3,278
75 歳以上	312	274	252
合 計	2,393	2,317	3,530

(2) 健康相談事業

心身の健康についての適切な指導・助言を行い、市民の健康保持増進を図りました。

実施状況

	実施回数	相談件数（延べ）		
		平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
あさけプラザでの相談	週 2 回	89	103	46
保健所等での相談（来所）	随時	25	36	48
電話による健康相談	随時	23	66	136
健康教育と併設	随時	29	13	122
合 計		166	218	352

(3) 検診（胃がん、子宮頸がん、大腸がん、乳がん、胸部、肝炎ウイルス検査、歯周疾患検診）

検診を実施することにより、疾病を早期に発見し、適切な治療及び生活習慣の改善につなげ、疾患発症または重症化の予防を図りました。

検診受診状況

区分	年度	40歳以上					40歳未満		
		対象者数 (人)	受診者数(人)			受診率 (%)	受診者数(人)		
			地区 巡回	医療 機関	合計		地区 巡回	医療 機関	合計
胃がん検診	平成23年度	78,620	3,416	10,359	13,775	17.5	148		148
	平成22年度	73,052	3,619	8,992	12,611	17.3	184		184
	平成21年度	73,052	3,871	7,815	11,686	16.0	263		263
乳がん検診	平成23年度	50,236	6,063	2,508	8,571	25.8	—		—
		(エコー)	413		413		670		670
	平成22年度	47,922	6,140	2,272	8,412	27.3	—		—
		(エコー)	370		370		808		808
	平成21年度	47,922	6,704	2,207	8,911	21.4	—		—
		(エコー)	219		219		929		929
胸部検診	平成23年度	78,620	6,181		6,181	7.9	166		166
	平成22年度	73,052	5,992		5,992	8.2	211		211
	平成21年度	73,052	5,581		5,581	7.6	233		233
大腸がん検診	平成23年度	78,620	4,505	12,133	16,638	21.2			
	平成22年度	73,052	4,441	8,727	13,168	18.0			
	平成21年度	73,052	4,713	7,718	12,431	17.0			

区分	年度	20歳以上の女性					
		対象者数 (人)	受診者数(人)				受診率 (%)
			地区 巡回	医療 機関	妊婦健診 での受診者	合計	
子宮頸がん検診	平成23年度	64,492	4,052	8,650	2,582	15,284	33.8
	平成22年度	63,398	4,423	7,554	1,880	13,857	28.5
	平成21年度	63,398	4,554	6,727		11,281	21.5

区分	年 度	対象者数 (人)	受診者数 (人)			受診率 (%)
			地区巡回	医療機関	合計	
B型・C型 肝炎ウイルス検査	平成 23 年度	—	—	200	200	—
	平成 22 年度	—	—	222	222	—
	平成 21 年度	—	—	513	513	—

さわやか歯科検診（歯周病検診）受診者数

年 度	対象者数 (人)	受診者数 (人)					受診率 (%)
		40 歳	50 歳	60 歳	70 歳	合計	
平成 23 年度	17,270	269	212	218	380	1,079	6.2
平成 22 年度	16,941	233	175	193	251	852	5.0
平成 21 年度	16,903	227	178	280	275	960	5.7

（４）健康増進法健康診査・保健指導

各医療保険による特定健康診査の対象とならない、生活保護受給者等の 40 歳以上の人を対象とし、メタボリックシンドローム早期発見・予防改善のための健診・保健指導を実施しました。

健康増進法健康診査・保健指導受診者数

年 度	健康診査			保健指導							
				動機付け支援				積極的支援			
	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	対象者数 (人)	受診者数		受診率 (%)	対象者数 (人)	受診者数		受診率 (%)
					初回面談	継続支援			初回面談	継続支援	
平成 23 年度	2,523	577	22.9	34	3	3	17.6	40	5	—	12.5
平成 22 年度	2,301	499	21.7	29	6	—	20.7	29	0	—	0
平成 21 年度	2,112	444	21.0	17	1	—	5.9	15	1	—	6.7

2) 健康づくり支援

(1) - 1 健康教育

一般市民を対象に、各種教室を行い健康増進・疾病予防を図りました。

実施状況

教室	年度	回数 (回)	利用者数 (人)			
			延人員	実人員	40歳以上	
					40歳以上	40歳未満
公園 DE エクササイズ	平成 23 年度	15	493	90	88	2
	平成 22 年度	20	666	86	84	2
	平成 21 年度	18	662	104	104	0
健康づくりよっかいち	平成 23 年度	10	426	51	50	1
	平成 22 年度	12	564	57	56	1
	平成 21 年度	14	296	25	25	0
夏限定・本気で シェイプアップ講座	平成 23 年度	4	202	63	56	7
	平成 22 年度	8	430	130	130	0
	平成 21 年度	8	342	109	109	0
「食」から ブラッシュアップ講座	平成 23 年度	6	106	78	5	73
	平成 22 年度	4	51	47	5	42
保健事業指導者 支援事業	平成 23 年度	1	44	44	17	27
	平成 22 年度	1	88	88	41	47
	平成 21 年度	1	55	55	22	33
いきいき 栄養教室	平成 23 年度	5	47	47	47	0
	平成 22 年度	6	55	55	55	0
	平成 21 年度	6	54	54	54	0
乳がん予防 健康教育	平成 23 年度	86	7,026	7,026	6,356	670
	平成 22 年度	85	7,318	7,318	6,510	808
	平成 21 年度	59	5,867	5,867	5,049	818
出前講座	平成 23 年度	65	1,875	1,875	1,726	149
	平成 22 年度	85	2,812	2,812	2,594	218
	平成 21 年度	97	3,214	3,214	3,094	120
地区及び各種団体等 からの依頼	平成 23 年度	23	1,265	1,265	1,246	19
	平成 22 年度	16	468	468	400	68
	平成 21 年度	16	704	704	667	37

(1) - 2 健康ボランティア開催による健康教育

一般市民が身近な場所で健康づくりを実践できるよう、健康ボランティアが各地域で活動しました。

参加者数（人）

年度	ステキ健康サポーターによる活動	ヘルスリーダーによる活動	食生活改善推進員による活動
平成 23 年度	18,655	7,758	5,376
平成 22 年度	18,299	7,572	4,422
平成 21 年度	18,038	1,246	4,212

ステキ健康サポーター：生活習慣病予防をすすめるボランティア

ヘルスリーダー：介護予防をすすめるボランティア

食生活改善推進員：食生活改善をすすめるボランティア

(2) - 1 健康ボランティア養成

一般市民が身近な地域で健康づくりを進められるよう、健康ボランティアを養成しました。

実施状況

教室	年度	回数 (回)	利用者数（人）			
			延人員	実人員	40歳以上	
					40歳以上	40歳未満
ステキ健康サポーター 養成講座	平成 23 年度	10	229	30	30	0
	平成 22 年度	16	370	53	52	1
	平成 21 年度	12	337	63	63	0
ヘルスリーダー 養成講座	平成 23 年度	10	508	67	66	1
	平成 22 年度	16	403	62	62	0
	平成 21 年度	6	210	43	42	1
食生活改善推進員養成 事業(栄養教室) (ステップアップ [®] 栄養教室)	平成 23 年度	12	310	56	51	5
	平成 22 年度	15	426	61	60	1
	平成 21 年度	15	367	53	51	2

(2) - 2 健康ボランティアスキルアップ研修

健康ボランティアの資質向上のため、研修を行いました。

実施状況

研修を行った団体	年度	回数(回)	延人員(人)
ステキ健康サポーター	平成 23 年度	2	67
	平成 22 年度	6	303
	平成 21 年度	2	87
ヘルスリーダー	平成 23 年度	2	58
	平成 22 年度	9	200
	平成 21 年度	9	114
食生活改善推進員	平成 23 年度	2	26
	平成 22 年度	1	5

(3) 地域既存団体への健康づくり支援

地域の関係団体が健康ボランティアと連携して、自主的な健康づくりの取り組みが促進できるよう、健康づくりへの意識向上を目指した情報交換会・講演会を開催しました。

実施状況

	平成 23 年度
取り組んだ地区数	2 地区
健康づくり課が働きかけた団体数	9 団体
健康ボランティアと顔合わせした団体数	7 団体

(4) 地域職域連携推進協議会

地域保健と職域保健が連携し、個人が生涯にわたって心身の健康の保持増進を図り、継続的な健康管理を支援していく目的で協議会を開催しました。

開催状況

開催日	議事
平成 23 年 9 月 6 日	四日市市の健康課題について
平成 24 年 2 月 28 日	健康課題への取り組みと今後の方向について

(5) がん検診アクションプロジェクト～働く世代のあなたに～

働き盛りの市民に対し、がんや健康について関心を持つきっかけを提供するために、がん検診受診啓発イベントを実施しました。また、民間の関連団体と合同で「よっかいちキャンサーリボン実行委員会」を設立し、実行委員会形式でイベントの企画・運営を行いました。

実施状況

開催日	開催場所	参加者数	内容
平成 23 年 11 月 11 日	四日市市 文化会館 (第 1 ホール)	1,055 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャーナリスト鳥越俊太郎さんによる講演会「がんと向き合って」 ・関連団体による検診等啓発ブース ・肺がん無料検診

3) 介護予防事業 (65歳以上の方対象)

(1) 出前講座

健康が維持されるよう、地区市民センター等で認知症や閉じこもり予防などの介護予防に関する知識の普及・啓発を行いました。

実施状況

年度	延開催回数 (回)	延利用者数 (人)
平成 23 年度	53	1,390
平成 22 年度	76	2,140
平成 21 年度	88	2,487

(2) 健康相談

健康づくりや認知症や閉じこもり予防などの介護予防に関する相談を行いました。

相談件数 (人)

年度	来所相談		電話相談 (ヘルプダイヤル等)	健康教育 と併設	合計
	あさけプラザ	保健所等			
平成 23 年度	4,009	365	383	19	4,776
平成 22 年度	4,594	258	452	108	5,412
平成 21 年度	4,133	319	228	383	5,063

(3) 訪問事業

健康づくりや認知症や閉じこもり予防などの介護予防に関する訪問指導を行いました。

実施者数 (人)

年度	実人員 (人)			延人員 (人)		
	閉じこもり り予防	その他	計	閉じこもり り予防	その他	計
平成 23 年度	24	0	24	117	0	117
平成 22 年度	21	0	21	141	0	141
平成 21 年度	18	1	19	59	1	60

(4) - 1 介護予防教室（普及啓発）（おおむね65歳以上の方対象）

介護予防の普及啓発に資する介護予防教室を行いました。

実施状況

教室	年度	回数 (回)	利用者数 (人)			
			延人員	実人員	65歳以上	
					65歳以上	65歳未満
お達者クラブ	平成23年度	322	7,834	1,296	1,254	42
	平成22年度	431	10,800	1,343	1,289	54
	平成21年度	432	11,264	1,337	1,263	74
体験！お達者クラブ (平成23年度より)	平成23年度	18	378	238	227	11

(4) - 2 介護予防教室（実践教育）（おおむね65歳以上の方対象）

健康維持、介護予防のための実践教育を行いました。

実施状況

教室	年度	回数 (回)	利用者数 (人)			
			延人員	実人員	65歳以上	
					65歳以上	65歳未満
地域でお達者クラブ (平成23年度より)	平成23年度	476	7,431	1,323	1,226	97
元気で長生き 料理教室	平成23年度	25	—	512	335	177
	平成22年度	25	—	542	367	175
	平成21年度	25	—	521	380	141

栄養指導事業

1) 給食施設指導

健康増進法、健康増進法施行規則に基づき、特定多数の人に継続的に食事を供給する施設に対して栄養管理指導を行いました。

(1) 給食施設巡回指導

指導件数 (件)

		平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
学校	特定給食施設指導数	9	4	8
	一般給食施設指導数	0	1	0
病院	特定給食施設指導数	10	10	10
	一般給食施設指導数	3	3	3
老人保健施設	特定給食施設指導数	4	0	2
	一般給食施設指導数	0	0	4
児童福祉施設	特定給食施設指導数	4	7	2
	一般給食施設指導数	16	10	6
老人福祉施設	特定給食施設指導数	2	3	0
	一般給食施設指導数	8	10	0
社会福祉施設	特定給食施設指導数(※)	-	-	-
	一般給食施設指導数	5	8	1
事業所	特定給食施設指導数	13	13	9
	一般給食施設指導数	1	1	19
寄宿舍	特定給食施設指導数	2	0	0
	一般給食施設指導数	0	8	0

(※) 指導対象施設なし

(2) 給食施設研修会

実施状況

実施日	実施場所	参加者数	内容
平成 24 年 2 月 17 日	三重北勢健康 増進センター (ヘルスプラザ)	26 人	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講義 「平成 23 年度給食施設巡回指導の結果について」 担当：四日市市保健所 健康づくり課 ○ 講義 「給食施設における衛生管理について」 担当：四日市市保健所 衛生指導課 ○ 発表 「平成 23 年度給食施設ネットワーク研究会の取り組みについて」 発表者：二宮病院 管理栄養士 鳥居 寛律 氏 ○ グループワーク・情報交換

平成 24 年 3 月 2 日	三重北勢健康 増進センター (ヘルスプラザ)	32 人	○ 講演 「食を通じて健康になる」 講師：ロート製薬株式会社 上野テクノセンター 経営情報本部 人事総務部 中矢 亨 氏 ○ グループワーク・情報交換
--------------------	------------------------------	------	---

2) 栄養表示基準等に関する相談

健康増進法第 26 条、第 31 条、第 32 条に基づき、食品の表示等に関する相談を実施しました。

相談件数 (延べ件数)

	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
特別用途食品	3	0	4
栄養表示基準	5	18	10
栄養機能食品	0	0	0

食育推進ネットワーク事業

四日市市食育推進基本計画の下、市内および食育推進関係団体等がともに連携を進め、食に関する取り組みの充実や発展をはかる目的で、四日市市食育推進会議や啓発事業を開催しました。

実施状況

開催日	事業	内容
平成 23 年 7 月 30 日	よっかいち 食育フェスタ 2011	食育推進関係団体による展示および活動紹介 親子で楽しく♪季節のお野菜クッキング
平成 23 年 11 月 4 日	第 1 回 四日市市食育推進会議	1. 四日市市における食育推進の経緯及び四日市市食育推進基本計画の概要 2. 目標指標の進捗状況について 3. 事業の実施報告 4. 第 2 次食育推進基本計画について
平成 24 年 1 月 28 日	食育推進のための 講演会	あなたから未来へ！ ～子どもたちへ伝えよう、食という宝物～ 講師：ユマニテク調理製菓専門学校 副校長 宇佐見靖夫氏
平成 24 年 3 月 21 日	第 2 回 四日市市食育推進会議	1. 平成 23 年度実績見込報告と食育推進の成果・課題について 2. 四日市市食育推進基本計画の見直しについて 3. 平成 24 年度 食育フェスタの開催について

三重北勢健康増進センター事業

利用状況と推移（人）

区 分		平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度	対前年度比	
運動施設個人使用		実績	実績	実績	増減	
プール	一般	22,901	24,389	25,575	▲1,488	93.9%
	65歳以上	15,190	15,260	14,206	▲70	99.5%
	中学生以下	10,645	12,203	11,198	▲1,558	87.2%
	小計	48,736	51,852	50,979	▲3,116	94.0%
トレーニングジム	一般	9,077	10,212	10,734	▲1,135	88.9%
	65歳以上	7,844	7,966	6,888	▲122	98.5%
	小計	16,921	18,178	17,622	▲1,257	93.1%
ランニングトラック	一般	6,849	6,791	5,745	58	100.9%
	中学生以下	1,808	1,479	2,011	329	122.2%
	小計	8,657	8,270	7,756	387	104.7%
グラウンドゴルフ場	一般	3,665	4,772	5,164	▲1,107	76.8%
	中学生以下	117	117	125	0	100.0%
	小計	3,782	4,889	5,289	▲1,107	77.4%
計		78,096	83,189	81,646	▲5,093	93.9%

健康度測定	65	76	89	▲11	85.5%
総合体力測定	738	931	914	▲193	79.3%
運動実践指導	3,413	2,930	3,699	483	116.5%

健康教室	シリーズ型	1,995	3,359	2,127	▲1,364	59.4%
	1回型	44	88	55	▲44	50.0%
計		2,039	3,447	2,182	▲1,408	59.2%

障害児等機能回復訓練	2,020	1,895	1,801	125	106.6%
------------	-------	-------	-------	-----	--------

運動施設専用使用	17,591	21,179	22,802	▲3,588	83.1%
会議施設使用	16,106	16,054	17,870	52	100.3%

利用者合計	120,068	129,701	131,003	▲9,633	92.6%
-------	---------	---------	---------	--------	-------

2) 四日市健康フェスティバル

健康に関する体験・相談ができる健康フェスティバルを開催しました。各種コーナーの展示及び施設の無料開放も同時開催しました。

実施状況

日時	会場	入場者数（人）		参加団体
		大人	小人※	
平成 23 年 2 月 12 日(日) 午前 10 時～午後 3 時	三重北勢健康増進 センター	950	845 105	13 団体

※中学生以下

各コーナーの利用者数・スタッフ数（人）

区分	団体名	利用者数	スタッフ数
団体 コー ナー	四日市薬剤師会	646	8
	三重県鍼灸師会四日市支部	76	12
	四日市鍼灸マッサージ師会	133	12
	四日市食生活改善推進協議会（四日市ヘルスメイト）	160	6
	三重断酒新生会北勢ブロック四日市支部	160	6
	わかば共同作業所	107	5
	三重県病院薬剤師会	18	3
	四日市福祉会 垂坂山ブルーミングハウス	—	4
	四日市歯科医師会	140	23
	フェアワークス下野	102	5
	KCSセンターいなべ	74	3
	田中明彦（足型計測、個人特別参加）	59	1
	ヘルスリーダーの会	77	20
	ステキ健康サポーターの会	237	46
	小 計		1,989
各 種 施 設	グラウンドゴルフ	65	
	プール	190	
	トレーニングジム	69	
	卓球	63	
	小 計		387
合 計		2,376	154

食 品 衛 生

1)食品営業・届出施設の監視指導状況

過去の食中毒の発生状況、製造・加工された食品の流通の広域性、取扱量及び営業の特殊性などを考慮し、四日市市食品衛生監視指導計画に基づき、監視を実施しました。

食中毒が発生した場合に被害が大規模となる可能性が高い集団給食施設の重点監視、食中毒の食品事故が発生しやすい夏期や多品目の食品が短期間に流通する年末年始の一斉監視を実施し、食品の衛生的な取扱いや適正表示等に関して指導を行いました。

ランク別監視指導件数

項目 ランク	監視頻度	施設数 (件) (x)	監視数 (件) (y)	平成 23 年度 監視頻度 達成率 (%) ※ (Z)	平成 22 年度 監視頻度 達成率 (%) ※ (Z)	平成 21 年度 監視頻度 達成率 (%) ※ (Z)
A	2 回以上/1 年	133	267	100.4	100.9	108.2
B	1 回以上/1 年	200	197	98.5	88.7	59.9
C	1 回以上/3 年	4,529	1,305	86.4	84.5	70.0
D	—	1,906	1,020	—	155.4	196.6
合 計		6,768	2,789			

※監視頻度達成率の積算根拠は次の通りである。

(平成 22 年度以前の監視頻度)

A	2 回以上/1 年
B	1 回以上/1 年
C	1 回以上/2 年
D	1 回以上/5 年

$$A : z = y / 2x \times 100$$

$$B : z = y / x \times 100$$

$$C : z = 2y / x \times 100$$

$$D : z = 5y / x \times 100$$

(平成 23 年度の監視頻度)

$$A : z = y / 2x \times 100$$

$$B : z = y / x \times 100$$

$$C : z = 3y / x \times 100$$

平成 23 年度に食中毒発生時のリスク、取り扱う食品の流通の広域性、製造量などを評価し、3 ランクに分類を変更しました。

業種別監視指導件数

許可業種

業 種 \ 項 目	平成 23 年度 施設数 (件)	平成 23 年度 監視数 (件)	平成 22 年度 監視数 (件)	平成 21 年度 監視数 (件)
飲 食 店 営 業	3,433	1,175	1,370	944
喫 茶 店 営 業	753	207	58	54
菓 子 製 造 業	361	168	191	168
あ ん 類 製 造 業	2	0	0	1
ア イ ス ク リ ー ム 類 製 造 業	70	50	45	17
乳 製 品 製 造 業	1	3	0	2
乳 類 販 売 業	432	129	139	167
食 肉 処 理 業	31	66	12	53
食 肉 販 売 業	354	224	183	194
食 肉 製 品 製 造 業	5	10	2	11
魚 介 類 販 売 業	448	177	228	252
魚 介 類 せ り 売 営 業	4	4	10	8
魚 肉 ね り 製 品 製 造 業	1	0	1	2
食 品 の 冷 凍 又 は 冷 蔵 業	24	9	13	31
清 涼 飲 料 水 製 造 業	8	4	4	4
氷 雪 製 造 業	3	1	0	1
氷 雪 販 売 業	8	0	0	0
食 用 油 脂 製 造 業	4	5	4	4
み そ 製 造 業	9	2	0	9
醬 油 製 造 業	5	2	0	6
ソ ー ス 類 製 造 業	8	1	5	10
酒 類 製 造 業	9	2	1	9
豆 腐 製 造 業	9	3	3	12
め ん 類 製 造 業	29	16	21	37
そ う ざ い 製 造 業	53	24	21	62
缶 詰 又 は 瓶 詰 食 品 製 造 業	18	2	3	20
添 加 物 製 造 業	28	7	5	21
合 計	6,110	2,291	2,319	2099

届出業種

項目 業種		平成 23 年度 施設数 (件)	平成 23 年度 監視数 (件)	平成 22 年度 監視数 (件)	平成 21 年度 監視数 (件)
給 食	学 校	49	27	23	14
	病 院 ・ 診 療 所	49	15	13	16
	事 業 所	54	4	1	2
	そ の 他	119	35	32	29
食 品 製 造 業		315	28	29	145
野 菜 ・ 果 物 販 売 業		4	107	140	182
そ う ざ い 販 売 業		1	88	107	133
菓 子 販 売 業		4	95	114	139
食 品 販 売 業		59	99	136	169
添 加 物 製 造 業		4	0	0	0
合 計		658	498	595	829

2) 食品等の収去検査実施状況

市内において生産、製造、加工又は販売される食品等について、計画に基づき収去検査を実施しました。収去検査数は337検体（乳以外の食品+乳）でしたが、そのうち四日市市食品の衛生管理指標*不適合12検体、表示違反2検体あり、市内の業者は直接改善指導を実施し、市外での製造品の場合は管轄の地方公共団体に通報や調査依頼を行ない再発防止に努めました。

乳以外の食品

項目		平成 23 年度 収去検体数 (件)	規格基準 違反件数 (件)	表示 違反件数 (件)	市指標 不適件数 (件)	平成 22 年度 収去検体数 (件)	平成 21 年度 収去検体数 (件)
分 類	魚 介 類	12	0	0	2	17	15
冷 凍 食 品	無 加 熱 摂 取 冷 凍 食 品	3	0	0	0	0	0
	凍 結 直 前 に 加 熱 さ れ た 加 熱 後 摂 取 冷 凍 食 品	5	0	0	0	0	6
	凍 結 直 前 未 加 熱 の 加 熱 後 摂 取 冷 凍 食 品	3	0	0	0	0	4
魚 介 類 加 工 品 (かん詰・びん詰を除く。)		11	0	0	0	12	20
肉 卵 類 及 び そ の 加 工 品 (かん詰・びん詰を除く。)		29	0	0	0	39	49
乳 製 品		2	0	0	0	3	1
乳 類 加 工 品 (アイスクリーム類を除 き、マーガリンを含む。)		0	0	0	0	1	0
穀 類 及 び そ の 加 工 品 (かん詰・びん詰を除く。)		25	0	0	3	28	10
野 菜 ・ 果 物 及 び そ の 加 工 品		47	0	1	0	53	54

(かん詰・びん詰を除く。)						
菓 子 類	67	0	1	6	67	34
清 涼 飲 料 水	6	0	0	0	0	2
酒 精 飲 料	0	0	0	0	1	2
か ん 詰 ・ び ん 詰 食 品	1	0	0	0	0	2
そ の 他 の 食 品	118	0	0	1	109	101
器 具 及 び 容 器 包 装	6	0	0	0	6	5
合 計	335	0	2	12	336	305

※四日市市食品の衛生管理指標とは、当市が定めた基本的な衛生管理の目安となる指標です。食品の衛生管理指標に不適合であっても、直ちに食品衛生法違反にあたるものではありません。

乳

分 類 \ 項 目	平成 23 年度 収去検体数 (件)	規格基準 違反件数 (件)	表示 違反件数 (件)	平成 22 年度 収去検体数 (件)	平成 21 年度 収去検体数 (件)
牛 乳	2	0	0	2	2
合 計	2	0	0	2	2

その他の保存食検査・拭取り検査・ATP検査 (件)

分 類 \ 項 目	平成 23 年度 収去検体数	平成 22 年度 収去検体数	平成 21 年度 収去検体数
保 存 食	0	0	0
器 具 等 拭 取 検 査	46	74	72
器 具 等 A T P 検 査	205	395	242

3) 有症者・食中毒(疑いを含む)、食品等の要望・申出・相談調査対応状況

「食品を食べて体調を崩した。」「食品中に異物(虫、毛等)が入っていた。」など様々な相談が寄せられ、市内での発生調査は当市で実施するとともに、広域的な食中毒事件や不良食品等の調査に際しては、関係の都道府県、政令市等と緊密な情報交換を行ない、その原因究明と被害拡大防止に努めました。

要望・申出・相談・調査件数（件）

分類	項目	有症者・食中毒 (疑いを含む) 相談・調査	食品要望 申出・相談 ・調査	表示 相談・調査	合 計
		内 訳	当市での対応	28	55
	市外から調査依頼	8	3	2	13
	市外への調査依頼	7	8	0	15
	平成 23 年度	43	66	18	127
	平成 22 年度	44	70	39	153
	平成 21 年度	55	85	24	164

4) 食中毒の発生

管内発生状況

発生年月	原因施設	患者数（人）	原因食品	原因物質
平成 23 年 4 月	飲食店	25	不明	カンピロバクター

5) 食中毒警報

平成 23 年度は、食中毒警報を 3 回発令しました。関係機関に情報提供を行なうとともに、掲示板、立て看板、ホームページにて情報発信しました。

平成 23 年度		発令 基準	平成 22 年度		発令 基準	平成 21 年度		発令 基準
発令月日	解除月日		発令月日	解除月日		発令月日	解除月日	
6 月 28 日	6 月 30 日	(A)	7 月 20 日	7 月 22 日	(A)	7 月 15 日	7 月 17 日	(A)
7 月 14 日	7 月 16 日	(A)	7 月 22 日	7 月 24 日	(A)	8 月 12 日	8 月 14 日	(C)
8 月 8 日	8 月 10 日	(A)	8 月 16 日	8 月 18 日	(A)			

* 食中毒警報発令基準

- (A) 気温 30℃以上が 10 時間以上継続することが予想される場合
- (B) 気温 25℃以上で相対湿度 90%以上が 10 時間以上継続することが予想される場合
- (C) 24 時間以内に急激に気温が上昇し、その差が 10℃以上を超えることが予想される場合

* 警報の有効期間：警報発令後 48 時間

6) 食品衛生知識の普及啓発

食品等事業者の自主衛生管理の推進や市民への食品衛生知識の普及啓発などを目的として、講習会や説明会を実施しました。

「広報よっかいち」に食中毒防止のための記事を掲載し、広報しました。

また、四日市食品衛生協会と共同で、8 月 1 日（月）に大型複合施設 2 店舗を借用して、来店者に食中毒防止の啓発物品、食中毒対策のリーフレットを配布して普及啓発しました。

食品衛生講習会等の実施状況

講習会対象者 項目	平成 23 年度		平成 22 年度		平成 21 年度	
	実施回数 (回)	参加人数 (人)	実施回数 (回)	参加人数 (人)	実施回数 (回)	参加人数 (人)
食 品 事 業 者	28	1,209	30	1,291	34	1,409
給 食 関 係 従 事 者	4	387	3	388	3	376
食 生 活 改 善 推 進 員	2	54	1	32	2	52
消 費 者	22	357	23	385	9	98
そ の 他	8	111	6	91	4	56
合 計	64	2,118	63	2,187	52	1,991

7) 魚介類行商営業者状況

	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
営業者数	4	3	3

8) 調理師免許試験状況及び養成施設卒業状況 (人)

	願書提出者数	免許申請者数新規	免許申請者数再交付	免許申請者数書換え
平成 23 年度	89	190	12	16
平成 22 年度	89	197	11	16
平成 21 年度	92	192	15	20

9) 製菓衛生師免許試験状況 (人)

	願書提出者数	免許申請者数新規	免許申請者数再交付	免許申請者数書換え
平成 23 年度	76	49	0	5
平成 22 年度	57	36	0	3
平成 21 年度	61	49	1	7

獣 医 務 衛 生

飼い犬に対して動物病院と協力して犬の登録・狂犬病予防注射を実施し、また、係留されていない犬の捕獲等を行うことで狂犬病の発生予防に努めました。(犬の登録及び狂犬病予防注射関係事務は、平成 22 年度より衛生指導課が行っています。)

また、三重県動物の愛護及び管理に関する条例に基づき、動物による人への危害防止、動物取扱業の監視指導、動物の適正飼養の普及啓発を行いました。

1) 畜犬登録及び狂犬病予防注射実施状況 (頭)

	登録数			注射頭数		
	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
登録頭数	21,523	21,689	22,251			
新規登録数	1,506	1,677	1,617			
総注射頭数				15,167	15,327	15,279
集合注射頭数				2,423	2,681	2,939
家庭注射頭数				12,744	12,646	12,340

2) 犬及び猫の捕獲・引取・処分状況 (頭)

	犬				猫		
	捕獲	引取	返還	処分	引取	返還	処分
平成 23 年度	96	55	85	66	347	2	345
平成 22 年度	109	82	83	108	388	1	387
平成 21 年度	90	61	59	92	369	3	366

3) 畜犬及び猫の苦情・問い合わせ状況 (件)

区 分	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
放し飼いについて	68	85	66
飼い犬等引取について	158	284	152
糞尿公害について	78	100	76
死亡犬・猫収容依頼について	147	242	179
鳴き声公害について	150	52	44
負傷犬・猫保護依頼について	46	72	57
咬傷事故に関すること	28	32	32
犬登録・狂犬病予防注射について	844	904	64
野犬等捕獲依頼について	110	131	145
犬譲渡依頼について	141	232	235
失踪・拾得犬・猫照会について	851	973	811
その他	866	935	477
総 数	3,487	4,042	2,338

4) 動物取扱業届出数及び監視状況 (件)

	総施設数	区 分					計	
		販売	保管	貸出	訓練	展示		
平成 23 年度	登録数	75	49	33	2	11	5	100
	監視数	33	19	16	2	8	4	49
平成 22 年度	登録数	73	50	33	2	11	5	101
	監視数	33	22	13	0	1	5	41

平成 21 年度	登録数	72	52	32	3	11	4	102
	監視数	32	27	9	2	7	4	49

5) 動物による咬傷事故状況 (届出件数)

	犬	犬以外
平成 23 年度	11	0
平成 22 年度	12	0
平成 21 年度	9	0

6) 特定動物飼養状況 (件)

	大	小
平成 23 年度	2 (ヨウスコウワニ)	1 (ニホンザル)
平成 22 年度	2 (ヨウスコウワニ)	1 (ニホンザル)
平成 21 年度	1 (ヨウスコウワニ)	1 (ニホンザル)

生活衛生

旅館業、公衆浴場、興行場、理容業、美容業、クリーニング業等、日常生活に密着した営業に対して、その衛生水準の確保と向上を目指して、営業の許可・確認検査及び監視指導を行いました。

1) 営業施設数及び監視件数等の状況

	施設数	開設数	平成 23 年度 監視件数	平成 22 年度 監視件数	平成 21 年度 監視件数
		廃止数			
理 容 所	286	2	78	88	69
		12			
美 容 所	554	25	87	116	100
		30			
ク リ ー ニ ン グ 所	377	5	57	42	21
		2			
公 衆 浴 場	40	0	26	27	27
		5			
興 行 場	8	1	3	3	2
		2			
旅 館 業	76	3	28	12	25
		10			
総 数	1,341	36	279	288	244
		61			

薬務

1) 不正大麻・けし撲滅運動

大麻、けしの不正栽培及び自生大麻・けしを撲滅するため、市民に対しポスター、リーフレット（厚生労働省編、けし・大麻の見分け方）による啓発を図るとともに、その発見に努めました。

管内における自生けしの発見は143地域、58,769本あり、除去焼却しました。

◇不正大麻・けし撲滅運動期間：平成23年4月1日～6月30日

2) 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動

国連決議による「6.26国際麻薬乱用撲滅デー」に合わせて、薬物クリーンみえ推進キャンペーンを実施しました。

◇「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間：平成23年6月20日～7月19日

◇「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーン：平成23年7月17日

海蔵地区ショッピングセンター駐車場にて薬物乱用防止キャラバンカーを配置し、乱用薬物に関するパネルコーナーを設け、啓発活動を実施しました。

参加者：600人（地域住民、スタッフ含め）

3) 薬物乱用防止教室の推進

薬物乱用防止教室講師の資質向上のため、薬物乱用防止指導員、啓発団体等を対象に研修会を行いました。

◇「薬物乱用防止セミナー」：平成23年8月25日 参加者：104人

4) 麻薬・覚せい剤乱用防止運動

◇麻薬・覚せい剤乱用防止運動期間：平成23年10月1日～11月30日

◇街頭啓発：平成23年10月18日

近鉄四日市駅北口ふれあいモールにおいて啓発用物品の配付を行いました。

5) 薬事法等に基づく指導

薬局及び医薬品販売業者に対し、薬事法改正に係る指導及び薬局等構造設備規則の遵守指導、医薬品販売の適正管理指導を行いました。

毒物劇物登録業者及び業務上取扱者に対し、毒物及び劇物取締法による遵守指導を行いました。

麻薬施用機関に対し、麻薬及び向精神薬の取扱管理の適正化指導を行いました。

(1) 薬務六法に基づく施設数及び監視数

業 種		事 項	許可・届出 数	平成 23 年度 監視数	平成 22 年度 監視数	平成 21 年度 監視数	
医 薬 品	薬 局		144	96	76	72	
	製 造 業	専 業					
		薬 局		15	11	6	8
	製 造 販 売 業	第 1 種					
		第 2 種					
		薬 局		15	11	6	8
	一 般 販 売 業		1	0	5	6	
	店 舗 販 売 業		28	16	20	10	
	薬 種 商 販 売 業		8	10	7	22	
	特 例 販 売 業		1	1	4	14	
	業 務 上 取 り 扱 う 施 設			27	22	21	
医 薬 部 外 品	製 造 業						
	製 造 販 売 業						
	販 売 業			111	99	110	
	業 務 上 取 り 扱 う 施 設			26	23	16	
化 粧 品	製 造 業						
	製 造 販 売 業						
	販 売 業			89	83	108	
	業 務 上 取 り 扱 う 施 設			10	8	6	
医 療 機 器	製 造 業						
	専 業 修 理 業						
	製 造 販 売 業	第 1 種					
		第 2 種					
		第 3 種					
	販 売 業	高度管理医療機器等		55	48	52	54
		管理医療機器		708	147	125	134
		一般医療機器			147	131	141
	賃 貸 業	高度管理医療機器等		57	24	30	32
		管理医療機器		37	28	44	70
一般医療機器				28	50	69	
業 務 上 取 り 扱 う 施 設			27	23	20		

業 種		事 項	許可・届出 数	平成 23 年度 監視数	平成 22 年度 監視数	平成 21 年度 監視数
毒物 劇物	製 造 業	大 臣				
		知 事				
	輸 入 業	大 臣				
		知 事				
	一 般 販 売 業		195	99	111	118
	農 業 用 品 目 販 売 業		36	21	11	16
	特 定 品 目 販 売 業		6	2	3	3
	業務上取扱者	電 気 メ ッ キ	2	1	0	3
運 送 業		12	6	3	13	
非 届 出 業 務 上 取 扱 者			57	78	69	
麻 薬	卸 売 業					
	小 売 業			49	53	38
	病 院			22	20	16
	一 般 診 療 所			2	0	4
	家 畜 診 療 所			1	1	0
	研 究 者					
大 麻 研 究 者						
覚 せい 剤	施 用 機 関			2	6	3
	原 料 取 扱 者			122	98	84
	原 料 研 究 者					
総 数			1,320	1,241	1,198	1,288

結核対策

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、結核患者に対する適正医療の提供かつ確実な治療支援及び接触者に対する健康診断の実施を通して、結核の蔓延防止に努めました。

また、結核の発生防止のため、予防接種・定期健康診断の受診勧奨と正しい知識の普及啓発を進めることで、結核の予防を図りました。

1) 結核登録患者の状況

(1) 新登録患者数(人) (活動性分類・年齢階級別)

平成23年1月1日～平成23年12月31日

分類別 年齢	活動性結核									非結核性抗酸菌症(別掲)
	総数	肺結核活動性					肺外結核活動性	潜在性結核感染症		
		総数	喀痰塗抹陽性		その他の結核菌陽性	菌陰性その他				
			総数	初回治療			再治療			
総数	71	44	22	15	7	19	3	17	10	0
0～4	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
5～9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
15～19	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
20～29	6	2	2	2	0	0	0	1	3	0
30～39	2	2	1	1	0	1	0	0	0	0
40～49	9	3	1	1	0	1	1	3	3	0
50～59	7	5	3	1	2	1	1	1	1	0
60～69	5	4	3	2	1	1	0	1	0	0
70～	38	27	12	8	4	14	1	11	0	0

(2) 新登録患者数・罹患率の推移

() は、感染性肺結核の再掲

	平成23年	平成22年	平成21年
新登録患者数(人)	61 (22)	54 (17)	59 (21)
罹患率(人口10万対)	19.4	17.2	18.8

※新登録患者のうち、潜在性結核感染症除く

(3) 年末現在登録者数(人)(活動性分類・受療状況別)

平成23年12月31日現在

分類別 区分	総数	肺結核活動性				肺外結核活動性	潜在性結核感染症		不活動性結核	活動性不明
		登録時喀痰陽性		その他の結核菌陽性	菌陰性その他		治療中	治療終了		
		初回治療	再治療							
総数	137	10	7	10	2	13	6	4	81	4

入院	8	4	4	0	0	0	0	0	0	0
外来医療	40	6	3	10	2	13	6	0	0	0
医療なし	89	0	0	0	0	0	0	4	81	4
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2) 感染症診査協議会における結核医療診査状況

(1) 感染症法第37条の2申請状況（一般患者に対する医療）

平成23年1月1日～平成23年12月31日

	総数	被用者保険		国民健康保険			後期 高齢者	生活 保護	自費
		本人	家族	一般	退職本人	退職家族			
申請件数	105	21	5	27	0	0	48	4	0
合格件数	105	21	5	27	0	0	48	4	0
承認件数	105	21	5	27	0	0	48	4	0

(2) 感染症法第37条申請状況（入院患者の医療）

平成23年1月1日～平成23年12月31日

	総数	新規申請	継続申請	再申請	解除報告
申請件数	63	22	41	0	16
合格件数	63	22	41	0	
承認件数	63	22	41	0	

(3) 感染症法第37条による結核医療費の被保険者別状況

平成23年1月1日～平成23年12月31日

	総数	被用者保険		国民健康保険			後期 高齢者	生活 保護	自費
		本人	家族	一般	退職本人	退職家族			
H22年末現在	3	0	0	1	0	0	1	1	0
H23年承認件数	22	7	0	2	0	0	13	0	0
H23年解除件数	16	4	0	2	0	0	9	1	0
H23年末現在	9	3	0	1	0	0	5	0	0

4) 結核検診

(1) 定期診断及び定期外診断実施状況 (人)

平成23年度

区分	実施者数	予防接種		※QFT検査		間接撮影 (直接撮影)	
		6ヶ月未満	1歳未満	受診者数	感染者数	受診者数	患者発見数
総数	20,254	2,762	30			6,304 (11,158)	0
事業所	7,656					1,994 (5,662)	0

	学 校	4,220					4,172 (48)	0
	施 設	1,194					138 (1,056)	0
	一般住民	7,184	2,762	30			0 (4,392)	0
接 触 者	総 数	232		*16	125	11	(91)	2
	患者家族	101		*1	47	11	(53)	2
	そ の 他	131		*15	78	0	(38)	0
	管理検診	17					(17)	0

*ツベルクリン反応検査

※QFT検査(クオンティンフェロン):結核菌に感染しているかどうかを調べる血液検査です。

5) 結核健康相談開催

(1) 結核接触者健診及び管理健診

接触者健診 232件

管理健診 17件

(2) 保健指導 随時実施 (DOTS 実施件数含)

訪問指導件数 220件

所内面接件数 128件

電話相談件数 705件

6) 直接服薬確認 (DOTS) 事業

(1) DOTS支援状況

(人)

	対象者数	支援方法		
		面接・訪問	郵送	電話連絡
平成23年度	75	22 (117)	0 (0)	53 (247)
平成22年度	70	20	9	54
平成21年度	59	7	6	54

平成21年度、22年度:実施方法を途中で変更、実施方法別人数の合計は対象者数と一致しません。

平成23年度()内は、延人数

(2) DOTSカンファレンス実施状況

平成23年度

実施場所	実施日	参加者	検討数
四日市社会保険病院	毎月1回 (年間12回)	病棟看護師、外来DOTS担当看護師 保健所保健師	年間43件 (入院DOTS)

三重中央医療センター	※11月17日 1月19日 (年間2回)	病棟看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、保健所保健師	年間 3件
------------	----------------------------	----------------------------	-------

※定例毎月1回開催されているが、当保健所新規入院患者がいる場合のみ出席。

地域精神保健福祉対策

1) 措置・移送業務

「精神保健福祉法」に基づき、精神障害者の医療及び保護を行い、社会復帰の促進及びその自立と社会経済活動への参加の促進のために必要な援助を行い、その発生の予防その他、精神的健康の保持増進に努めました。

(1) 精神障害者保護取扱状況

(単位:件)

	申請・通報件数						通報等による調査結果の処理		指定医診察結果		措置非該当の場合の結果	
	計	法23条	法24条	法25条	法26条	法26条の2	鑑定必要	鑑定不要	措置該当	措置非該当	医療保護入院	その他
平成23年度	39	0	39	0	0	0	39	0	26	13	7	6
平成22年度	29	0	29	0	0	0	29	0	18	11	5	6
平成21年度	19	0	19	0	0	0	18	1	9	9	4	5

※精神保健福祉法

第23条：親族又は一般人からの申請

第24条：警察官の通報

第25条：検察官の通報

第26条・・・矯正施設の長の通報

第26条の2：精神科病院の管理者の届出

(2) 病名別・措置入院者数

(単位:件)

	総数	統合失調症	そううつ病	心因反応	非定型精神病	急性そう病	人格障害	覚醒剤中毒	アルコール依存症	その他
男性	19	11	2		1		1			4
女性	7	3			1					3
平成23年度措置患者総数	26	14	2		2		1			7
平成22年度措置患者総数	18	10	3	1	1					3
平成21年度措置患者総数	9	4	1					2		2

(3) 酒に酔って公衆に迷惑をかける行為の防止等に関する法律関係

この法律の警察官による7条通報に基づき、アルコール依存症の疑いのあるものについて、必要な支援を実施しました。(単位:件)

	平成23年度	平成22年度	平成21年度
警察官7条通報	0	0	1

(4) 三泗地域精神保健福祉連絡会議

三泗地域における地域精神保健福祉対策を総合的かつ効果的に推進するため、それぞれの精神保健福祉関係者と協議し、関係機関の連携の強化を図るため行いました。

開催日：平成24年2月16日(木)

出席者数：15名

内 容：三泗地域精神保健福祉関係者の連携、関係機関の連絡及び調整について

2) 手帳・医療の助成業務

(1) 精神障害者保健福祉手帳交付状況 (単位:件)

等級	平成23年度	平成22年度	平成21年度
1 級	172	163	146
2 級	904	836	747
3 級	305	293	281
合計	1,381	1,292	1,174

(2) 自立支援医療費(精神通院)受給者証交付状況 (単位:件)

	平成23年度	平成22年度	平成21年度
交付数	4,706	4,490	4,159

3) 地域精神保健福祉対策業務

(1) 精神保健福祉相談

精神疾患の治療やその対応等についての相談指導に医師・精神保健福祉士・保健師等が応じ、社会復帰の促進及び自立と社会参加の促進を図りました。また、医療や福祉を必要とする精神障害者に適切な関係機関を紹介しました。

対 象 本人・家族・その他

周知方法 広報よっかいち掲載、CTY、FMよっかいち、チラシ配布など

場 所 四日市市総合会館など

① 医師による精神保健福祉相談

日 時 原則 毎月第2・4金曜日 年10回

スタッフ 精神科医師・保健師等

結 果

(単位:件)

		平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
来所相談の総件数		36	59	63
相談者内訳	本人	3	3	11
	本人と家族	9	6	7
	家族のみ	5	17	41
	その他(関係者など)	19	33	4
治療状況	治療中	14	20	30
	未治療・治療中断	14	28	31
	その他	8	11	2

家庭訪問

(単位:件)

	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
医師の家庭訪問件数	7	3	5

※ 保健師との同行訪問

② 精神保健福祉士による精神保健福祉相談

日 時 原則 毎月第2・最終火曜日 年 24回

スタッフ 精神保健福祉士・保健師

結 果

(単位:件)

		平成 23 年度
来所相談の総件数		53
相談者内訳	本人	32
	本人と家族	11
	家族のみ	5
	その他(関係者など)	5
治療状況	治療中	28
	未治療・治療中断	11
	その他	14

家庭訪問

(単位:件)

	平成 23 年度
精神保健福祉士の家庭訪問件数	17

※保健師との同行訪問

③ 保健師等による精神保健福祉相談

スタッフ 保健師等

結 果

(単位:件)

		平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
相談の総件数		1, 4 9 7	1, 4 4 7	1, 1 2 7
内訳	面接	2 7 2	3 6 0	2 5 5
	電話	1, 0 0 3	8 3 4	6 8 8
	訪問	2 2 2	2 5 3	1 8 4

※訪問については医師・精神保健福祉士との同行訪問を除く。

※平成 23 年度 未治療・治療中断相談件数 延 105 件

【実人員 21 人 内治療に繋がったケース 17 人】

※平成 22 年度 未治療・治療中断相談件数 延 162 件

【実人員 40 人 内治療に繋がったケース 33 人】

※平成 21 年度 未治療・治療中断相談件数 延 74 件

【実人員 22 人 内治療に繋がったケース 17 人】

(2) 普及啓発

① こころの健康講座

こころの病気に対する無理解・偏見・差別の解消のため、病気や精神障害に関する正しい知識の普及啓発を行い、精神障害者を地域で支える体制づくりのリーダーを養成しました。

対 象 専門職(訪問看護師・介護福祉士・介護支援専門員等)・市民
 場 所 四日市市総合会館
 回 数 年 4 回 (専門職対象 2 回・市民対象 2 回)
 内 容

ア) 専門職(訪問看護師・介護福祉士・介護支援専門員等)対象

	日 時	内 容	講 師
1	7 月 1 7 日 (日) 午後 1:00~4:00	講義 「身近な精神疾患について」 「地域の精神保健の実態」	総合心療センターひなが 精神科医 山田 智子氏 四日市市保健所 保健師
2	7 月 3 1 日 (日) 午後 1:00~4:00	講義 「精神障害者家族としての思い」 「ボランティアからのメッセージ」 DVD 視聴 「心の声に耳を傾けてください」	地域家族会 「ほうれん草の会」会長 精神保健福祉ボランティア 「ハートフル会」会員

イ) 市民対象

	日 時	内 容	講 師
1	12月5日(月) 午後1:00~4:00	講義 「身近な精神疾患について」 「地域の精神保健の実態」	総合心療センターひなが 精神科医 浅井 慶介 氏 四日市市保健所 保健師
2	12月12日(月) 午後1:00~4:00	講義 「精神障害者家族としての想い」 「ボランティアからのメッセージ」 DVD 視聴 「心の声に耳を傾けてください」	地域家族会 「ほうれん草の会」会長 精神保健福祉ボランティア 「ハートフル会」会員

結 果

	平成23年度	平成22年度	平成21年度
参加者人数	68	183	275
講座回数	4	5	5

② こころの健康講座継続研修（わかば共同作業所委託事業）

精神保健福祉講座の受講者に対して、約3カ月後に継続研修を実施し、精神疾患・精神障害者の理解を深め、地域資源との継続的な関わりにより質的向上を図りました。また、施設などの協力を得て、人材活用を図りながら地域で支える体制づくりを整えていく研修を実施しました。

対 象 ① 平成22年度精神保健福祉講座受講者 51名 (1回)

② 平成23年度精神保健福祉講座受講者 42名 (2回)

及びハートフル会 会員

日 時 ① 平成23年7月11日(月) 13:30~15:30

② 平成23年10月30日(日) 13:30~15:30

平成24年2月20日(月) 13:30~15:30

場 所 ① 四日市市勤労者・市民交流センター

② 四日市市総合会館・四日市市勤労者・市民交流センター

内 容 講義（わかば共同作業所所長）

メンバーの体験発表

グループワーク

結 果 参加者 ①16名 ②15名

③ こころの健康づくり講演会

いのちの大切さという観点から、自分や家族・友達の命を大事にしていくことの大切さ、身近ないのちを大切にすることがひいては自殺予防になるということを広く市民に周知しました。更に、自殺予防の理解を図り、身近な支援者を育成し必要な場合は専門機関へつなげていただけるような支援体制を整えていくための講演会を実施しました。

対 象	市民
日 時	平成 23 年 12 月 3 日（土）13:30～15:00
場 所	四日市市文化会館 第 2 ホール
内 容	講演 かけがえのない「いのち」をつなぐために～いま私たちにできること～ 講師 NPO 法人「心に響く文集・編集局」 代表理事 茂 幸雄 氏 事務局長 川越 みさ子氏
結 果	参加者 183 名

④ 市民啓発講演会（相談支援センターソシオ委託事業）

こころの病に対して、市民に十分な理解は未だ得られておらず、当事者の方は、病気や障がいによるつらさに加えて世間の誤解や偏見等による生きづらさを抱えています。そのため、精神障害者の理解を深めるための普及啓発に努め、誰もがすこやかに暮らしていける地域づくりに努めました。

対 象	市民
日 時	平成 23 年 11 月 26 日（土）13:00～16:00
場 所	四日市市勤労者・市民交流センター
内 容	テーマ 「こころをつなぐコラボレーション ～やさしさあふれる街へ～」 記念講演 「自分らしく生きる」 講 師 当事者 岡田 彩 氏
結 果	参加者 282 名

⑤ 地区出前講座・地区依頼健康教育

回 数	22 回
参加人数	637 名
内 容	・うつ病の予防・こころのバリアフリー・精神疾患の理解 等

（3）自殺予防対策

① 庁内自殺対策連絡会議

自殺は社会的要因を含む多様かつ複合的な原因及び背景を有するものであることを踏まえ、単に精神保健の観点からのみならず、自殺の実態に即して自殺予防対策が実施されなければなりません。そのため、本市の現状を把握し、各関係機関が課題等の実態を共有し、関係機関に訪れた人の日常の中に隠れている自殺の兆候を気づき支援体制を整えるなど庁内の総合的な取り組みをしていくための情報共有・研修・情報交換等実施し、相談に対する職員の意識の向上を図りました。

日 時	平成 23 年 11 月 1 日 (火) 13 : 30 ~ 15 : 30
場 所	四日市市総合会館
対 象	四日市市人権にかかると相談ネットワーク連絡会 人権施策推進委員会 庁内の自殺予防対策に関する部署職員 関係機関
講 師	こころの健康センター 自殺対策担当保健師 田中 裕子氏・田邊 順子氏
内 容	◎ 「四日市市の自殺の現状」事例紹介及び関係機関の現状と課題共有 四日市市保健所 保健予防課 ◎ 講義 「自殺の兆候に気づくために大切なこと」 (メンタルパートナー養成ビデオ上映含)

結 果 参加 67 名

課 長 31 名 担当者 27 名

その他 9 名

【早期支援・アルコールネットワーク、ボランティア】

② 自殺予防週間 広報啓発、庁内関係部署へのポスター配布

9 月 広報特集号掲載 「みのがさないこころの SOS」

庁内関係部署にポスター配布

(人権センター・保護課・介護高齢福祉課・市民消費生活相談室・
障害福祉課・男女共同参画課・児童福祉課 等)

ホームページ・庁内掲示板啓発

③ 自殺対策強化月間 広報・健康だより・三重交通・公用車による啓発等

3 月 市内の三重交通全路線バスの車内掲示 (1 カ月)

広報「人権ひろば」掲載・パネル展示

健康だより発行

公用車にマグネット貼付による啓発

庁内関係部署・医療機関等にポスター・ティッシュ配布

④ メンタルパートナー養成研修

自殺予防について正しい知識を持ち、身近な人の変化に気づき、自殺を考えている人、悩んでいる人を相談窓口等へつなぐ役割が期待される人の養成を実施し、支援のネットワークづくりに努めました。

内 容 自殺の現状とその背景にある問題、自殺のサイン、声のかけ方
メンタルパートナーとしての役割等 (DVD 視聴含)

回 数 16 回

参加者 770 名 (研修・講座・講演会等重複)

(4) 組織の育成・支援

① 精神保健福祉ボランティア（ハートフル会）支援

地域において精神障害者等を支えるボランティアに対して、活動の支援を行いました。

対 象	精神保健福祉ボランティア（ハートフル会）
支援回数	年 4回（定例会） 年 7回（当事者会）
内 容	定例会の出席・デイケア当事者会参加

② 地域家族会支援

地域で精神障害者の家族が共に助け合い生活していくため家族会に対して支援を行いました。

対 象	地域家族会「ほうれん草の会」
支援回数	年 9 回
内 容	定例会の出席

③ 若年者早期支援事業

若年者の統合失調症を中心とした精神疾患の早期発見・早期治療に取り組むため、医療機関・教育委員会・保健所が連携を図り早期支援体制づくりに努めました。

内 容	早期支援ネットワーク会議の参加	2 回
	庁内会議参加	15 回

生徒への出前授業

対 象	市内中学校	
内 容	ストレスの理解・チェック・解消法・リラックス法等	
結 果	5 中学校 14 回 1,030 名	
	教職員等出前事例検討会	2 回

④ 四日市アルコールと健康を考えるネットワーク支援会議

四日市地域の医療機関や職域及び地域の関係機関の関係者が連携を図り、アルコール依存症等の研究・啓発・情報交換を行っているネットワークに対して支援を行いました。

連携会議出席回数	4 回
シンポジウムの講演協力	2 回

(5) 地域等における連携会議

こころの病などで悩む人への支援を実施するため、地域・関係機関等において情報の共有・検討を図るため会議に出席しました。

連携会議出席回数	17 回
----------	------

(6) 医療観察法に基づいたケア会議

心神喪失又は心神耗弱の状態、重大な他害行為を行った精神障害者に対して、医療の保護と社会復帰の促進のため、保護観察所が主催するケア会議に出席し、地域支援を行いました。

対象件数	1 件	家庭訪問	5 回	ケア会議出席回数	8 回
------	-----	------	-----	----------	-----

難病対策

国が指定した 56 の特定疾患を治療研究事業の対象とした医療費の給付制度があり、治療費の自己負担の軽減が図られています。本市では、申請の受付、三重県桑名保健福祉事務所への経由事務を行いました。

1) 特定疾患医療受給者証認定状況

年度末現在認定者数 (人)

		平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
1	ベ ー チ ョ ッ ト 病	4 3	4 2	3 9
2	多 発 性 硬 化 症	4 4	4 3	4 1
3	重 症 筋 無 力 症	3 6	3 2	3 0
4	全 身 性 エ リ テ マ ト ー テ ー ス	1 3 8	1 4 0	1 3 5
5	ス モ ン	8	8	8
6	再 生 不 良 性 貧 血	2 5	2 4	2 1
7	サ ル コ イ ド ー シ ス	6 5	5 7	5 6
8	筋 萎 縮 性 側 索 硬 化 症	3 0	3 2	2 9
9	強 皮 症 ・ 皮 膚 筋 炎 及 び 多 発 性 筋 炎	1 8 6	1 8 0	1 7 8
10	特 発 性 血 小 板 減 少 性 紫 斑 病	9 7	9 3	8 8
11	結 節 性 動 脈 周 囲 炎	2 4	2 2	2 4
12	潰 瘍 性 大 腸 炎	3 9 0	3 7 0	3 3 4
13	大 動 脈 炎 症 候 群	1 1	9	8
14	ビ ュ ル ガ ー 病	1 3	1 2	1 2
15	天 疱 瘡	8	8	8
16	脊 髄 小 脳 変 性 症	5 9	5 4	5 3
17	ク ロ ー ン 病	1 0 1	9 6	9 3
18	難 治 性 の 肝 炎 の う ち 劇 症 肝 炎	0	0	0
19	悪 性 関 節 リ ウ マ チ	1 2	1 3	1 5
20	パ ー キ ン ソ ン 病 関 連 疾 患	3 4 1	3 1 6	3 0 5
21	ア ミ ロ イ ド ー シ ス	4	3	3
22	後 縦 靱 帯 骨 化 症	9 9	9 6	9 3
23	ハ ン チ ン ト ン 病	3	3	2
24	モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	4 3	3 7	3 5
25	ウ エ ゲ ナ ー 肉 芽 腫 症	2	3	4
26	特 発 性 拡 張 型 (う つ 血 型) 心 筋 症	1 0 4	1 0 2	1 0 5
27	多 系 統 萎 縮 症	3 7	3 9	3 2
28	表 皮 水 疱 症 (接 合 部 型 及 び 栄 養 障 害 型)	2	2	2
29	膿 疱 性 乾 癬	7	7	6
30	広 範 脊 柱 管 狭 窄 症	3	3	3
31	原 発 性 胆 汁 性 肝 硬 変	7 0	6 7	7 1
32	重 症 急 性 膝 炎	7	2	5
33	特 発 性 大 腿 骨 頭 壊 死 症	2 8	2 9	3 1

34	混合性結合組織病	20	20	20
35	原発性免疫不全症候群	3	3	2
36	特発性間質性肺炎	23	19	13
37	網膜色素変性症	35	34	29
38	プリオソ病	1	2	3
39	肺動脈性肺高血圧症	9	8	6
40	神経繊維腫症	7	10	10
41	亜急性硬化性全脳炎	0	0	0
42	バット・キアリ症候群	1	1	1
43	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2	3	2
44	ライソゾーム病	8	7	7
45	副腎白質ジストロフィー	1	1	1
46	家族性高コレステロール血症	0	0	0
47	脊髄性筋萎縮症	0	0	0
48	球脊髄性筋萎縮症	1	1	0
49	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	19	15	11
50	肥大型心筋症	2	3	2
51	拘束型心筋症	0	0	0
52	ミトコンドリア病	3	2	1
53	リンパ脈管筋腫症	2	2	1
54	重症多形滲出性紅斑	1	0	0
55	黄色靭帯骨化症	8	4	1
56	間脳下垂体機能障害	28	22	12
合計		2,214	2,101	1,991

※46～56の疾患はH21.10.1から追加された疾患

2) 難病特別対策推進事業「難病在宅ケア事業」

(1) 在宅療養支援計画策定・評価事業

在宅の重症難病患者の療養を支援するため、関係機関と相互連携して評価及び課題の検討を行うことにより、地域支援体制充実を図りました。

ケア検討会出席

事例	検討内容	回数	出席者
筋萎縮性側索硬化症	患者の病状・身体症状ケア、支援者間の連携等	9	地域主治医・看護師・ケアマネジャー・訪問看護師・ヘルパー・保健師・(家族)等

(2) 訪問相談事業

在宅の重症難病患者・家族の精神的負担の軽減を図り不安を緩和し、地域の関係職種・機関が連携し、包括的な在宅支援を行える体制を整えるため、訪問、電話相談を行いました。

①家庭訪問

	病名	実人数	延人数
平成 23 年度	筋萎縮性側索硬化症	8	11
	パーキンソン病	1	1
	脊髄小脳変性症	1	1
	計	10	13
平成 22 年度	筋萎縮性側索硬化症	5	5
	スモン	2	2
	計	7	7
平成 21 年度	筋萎縮性側索硬化症	9	19
	ハンチントン病	1	1
	計	10	20

②来所相談

	実人数	延人数
平成 23 年度	65	71
平成 22 年度	25	36
平成 21 年度	11	14

③電話相談

	実人数	延人数
平成 23 年度	18	53
平成 22 年度	23	57
平成 21 年度	14	53

(3) 訪問看護師等育成事業

在宅支援に関わる関係機関が難病支援の理解と資質向上を図るため、研修及び情報交換を行いました。

日時・場所	内容	対象者	参加者数
平成 23 年 9 月 21 日(水) 18:30~21:00 四日市市文化会館 第 4 ホール	<p>< 講義 ></p> <p>「ALS 患者在宅支援の実際について」 講師：三重県難病医療連絡協議会 難病医療専門員 中井氏</p> <p>< グループワーク ></p> <p>テーマ：ALS 患者の事例検討 助言者：笹川内科胃腸科クリニック 院長 山中 賢治氏 三重県難病医療連絡協議会 難病医療専門員中井氏</p>	ヘルパー・訪問看護師・ケアマネジャー・相談員	32 名

3) 災害時訓練への支援

医療依存度の高い在宅療養患者の生命を維持するため、近隣の住民による円滑な支援ができるよう避難訓練を行いました。

日時・場所	内容	参加者数
平成 24 年 1 月 29 日(日) 9:00~11:30 波木南台集会所	(1) 講義 「自助・共助について」 担当：四日市市危機管理室 行方氏 「医療依存度の高い在宅療養患者の避難支援について」 講師 笹川内科胃腸科クリニック 院長 山中 賢治氏 (2) 災害時要援護者を想定した地域支援者との避難模擬訓練	26 名

参加者：地域支援者（自治会長・地域支援者・地区防災担当）・在宅サービス関係機関（ヘルパー）・地域医・市危機管理室・市保健所 など

感染症対策

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法という。)に基づき、感染症の発生予防及び感染防止拡大に努め、その患者に対し、人権に配慮した適切な医療を提供するための必要な措置を行い、感染症対策を推進しました。

また、発生動向調査により感染症情報を定期的に収集分析し、関係機関及び市民に情報提供を行いました。

1) 感染症発生動向調査（感染症サーベイランスシステム）

感染症発生動向調査（感染症サーベイランスシステム）は、全国規模で情報を迅速に収集、分析、公開するオンラインシステムです。当市においても、発生情報を国及び三重県に報告すると共に、感染症発生動向情報を受信し、ホームページにより市民に情報提供しました。

2) 感染症患者の発生状況

(1) 一類・二類・三類感染症発生状況（二類：結核以外） (件)

	病名	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	14	38	4

※一類・二類（結核以外）感染症の発生なし

(2) 四類・五類感染症発生状況（全数報告対象疾患のうち届出のあったもの） (件)

	病名	平成23年度	平成22年度	平成21年度
四類感染症	ツツガムシ病	—	4	—
	デング熱	—	—	1
	ライム病	—	—	1
	レジオネラ症	—	5	2
五類感染症	アメーバ赤痢	2	2	—
	クロイツフェルト・ヤコブ病	—	—	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	—
	後天性免疫不全症候群	2	2	2
	梅毒	2	1	2
	破傷風	—	1	—
	麻しん	—	—	1
	風しん	1	—	—
新型インフルエンザ (A/H1N1)		—	5	—

※インフルエンザ A/H1N1 型は、平成23年3月31日を持って「新型インフルエンザ等感染症」でなくなり、季節性インフルエンザの扱いとなりました。

(3) 行政検査実施状況

腸管出血性大腸菌感染症・細菌性赤痢・ノロウイルス以外は、三重県保健環境研究所にて実施しました。

(件)

病名	平成23年度	平成22年度	平成21年度
腸管出血性大腸菌感染症	56	173	17
鳥インフルエンザ (H5N1)	—	—	—
麻しん	—	—	—
デング熱	—	—	1
ツツガムシ病 (日本紅斑熱)	—	—	—
マラリア	—	—	—
ライム病	—	—	1
細菌性赤痢	—	—	1
薬剤耐性緑膿菌感染症	—	2	—
ノロウイルス	7	6	—
新型インフルエンザ (A/H1N1) ※	—	—	10

※新型インフルエンザ (A/H1N1) については、平成21年6月10日厚生労働省事務連絡「新型インフルエンザの早期探知等にかかるサーベイランスについて (依頼)」及び「インフルエンザウイルスにかかる病原体サーベイランスの強化と調査について」に基づき実施しました。
(平成21年7月23日廃止)

(4) 社会福祉施設等における発生状況

社会福祉施設等からの感染症発生の報告に対し、調査・指導等を実施しました。

(件)

施設種別	病名	平成23年度	平成22年度	平成21年度
社会福祉施設	感染性胃腸炎	2	3	0
学校	感染性胃腸炎	1	—	—

3) 衛生教育

感染症予防のための広報・ホームページ掲載・チラシの配布を行いました。自治会や企業、各種団体からの依頼により感染症予防のための健康教育を実施しました。

また、福祉施設職員の感染症の及び食中毒の予防に対する意識を高め、正しい知識を日々の業務に活かすことにより、感染症発生時の拡大防止を図るため、介護・高齢福祉課の協力のもと、感染症研修会を行いました。

	平成23年度	平成22年度	平成21年度
回数	46	39	26
延人員	1,092 (下記の感染症研修会含む)	1,114	1,346

感染症研修会

日時・場所	内容	対象者	参加数
平成23年10月13日(木) 14:00～16:00 三重北勢健康増進センター	【講義】 1. 「施設内で起こる食中毒について」 担当：衛生指導課職員 2. 「施設内における 感染症対策について」 担当：保健予防課職員 【講義演習】 「吐物の飛散実験」	高齢者福祉施設職員のうち、感染症・食中毒対策の中心となる方ほか	36名

4) 特定感染症検査 (HIV 除く) の実施

(件)

	平成23年度			平成22年度			平成21年度		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
梅毒	366	239	127	491	269	222	452	233	219
B型肝炎	334	220	114	489	276	213	487	248	239
C型肝炎	367	238	129	484	269	215	489	247	242

※B型肝炎・C型肝炎検査：保健所内での実施分

5) B型・C型ウイルス性肝炎治療費助成受給者証認定状況

本制度は、B型肝炎及びC型肝炎ウイルスの除去を目的に行うインターフェロン治療並びに核酸アナログ製剤治療に対して、医療費の自己負担分の一部を公費で助成する制度で

す。本市では、申請の受付、三重県桑名保健福祉事務所への経由事務を行いました。

年度末現在認定者数（人）

	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
認定者数	160	223	132

エイズ対策

感染者・患者への差別や偏見をなくすための知識普及と早期診断のための検査と相談を行いました。

1) 保健所における HIV 抗体検査数 (件)

	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
検査数	371	498	461
(夜間再掲)	103	122	114

2) 相談件数

(件)

	平成 23 年度		平成 22 年度		平成 21 年度	
	電話	来所	電話	来所	電話	来所
相 談	174	2	208	1	166	4

※検査来所時の相談は含まず

3) 啓発活動

(1) HIV 検査普及週間（6/1～6/7）に合わせた啓発活動

①夜間検査増設と時間延長

検査実施日： 6月 3日（金） 18：00～20：00

結果報告日： 6月10日（金） 18：00～20：00

②広報よっかいち 5月上旬号に掲載

③ホームページ掲載（よっかいち、保健所）

④「HIV 検査普及週間」ポスター配布と掲示

（配布先：教育委員会学校教育課、市内高等学校13校、四日市看護医療大学、市民文化部市民課、財政経営部管財課）

⑤FM よっかいちにて放送（H24.5.23～H24.6.3 11時30分より毎日放送）

⑥CTYにて放送（H24.5.13放送）

(2) 世界エイズデー（12/1）に合わせた啓発活動を実施

①夜間検査増設と時間延長

検査実施日： 12月 5日（月） 18：00～20：00

結果報告日： 12月12日（月） 18：00～20：00

②広報よっかいち 11月上旬号に掲載（ポルトガル語も作成）

③ホームページ掲載（よっかいち、保健所）

- ④街頭啓発実施 ※四日市看護医療大学学生と共同
 実施日 : 11月26日 14時から(1時間程度)
 実施場所 : 四日市北イオンにてキャンペーン
 啓発グッズ: ティッシュ(2000個)及び花の種(1500個) 配布
 店内にてパネル展示
- ⑤「世界エイズデー」ポスター配布
 (配布先: 教育委員会学校教育課、市内中学校(25校)、市内高等学校(13校)、
 市民文化都市民課、各地区市民センター、財政経営部管財課、四日市大学・四日
 市看護医療大学、四日市医師会専門学校、大橋学園(ユマニテク)、四日市福祉
 専門学校、あさけプラザ、四日市庁舎、北勢福祉事務所)
- ⑥拠点病院(県立総合医療センター)1階ロビーにて啓発パネル掲示
 啓発グッズ: ティッシュ500個及び啓発チラシ配布
- ⑦総合会館1階展示コーナー
 世界エイズデー啓発パネル展示: 11月28日(月)～12月2日(金)

(3) その他

- ①四日市看護医療大学学園祭にて啓発: 学生のサークルに参加
 ②四日市看護医療大学による啓発チラシ及びポスターデザイン作成
 ③各高等学校へ啓発: ポスタコンクールの案内及びHIVの情報提供、HIVパネル貸
 出についてのチラシを配布(H23.7.13)
 ④学校保健担当者会議(平成23年11月12日): 性感染症等について情報提供

医療費助成

1) 未熟児養育医療(未熟児対策)

出生時体重2,000g以下の新生児、その他入院養育を必要とする未熟児に対して、指定医療機関での医療に対し給付を行いました。

	申請・給付件数
平成23年度	86
平成22年度	81
平成21年度	78

2) 自立支援医療(育成医療)

本制度は、身体に障害や疾患があり、手術等の医療により、確実な治療効果が期待される児童に対して、指定医療機関での医療に対し給付を行う制度です。本市では、受給資格の認定を行いました。

	申請件数
平成23年度	126
平成22年度	122
平成21年度	156

3) 小児慢性特定疾患治療研究事業

本制度は、小児慢性疾患のうち、国が指定した 11 の特定疾患に対して、指定医療機関での医療に対し給付を行う制度です。本市では、申請の受付、三重県桑名保健福祉事務所への経由事務を行いました。

年度末現在認定者数（人）

	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
総 数	255	242	217
1 悪性新生物	32	34	31
2 慢性腎疾患	26	24	20
3 慢性呼吸器疾患	7	7	3
4 慢性心疾患	39	39	34
5 内分泌疾患	74	67	68
6 膠原病	7	6	7
7 糖尿病	14	12	12
8 先天性代謝異常	10	12	11
9 血友病等血液・免疫疾患	13	10	6
10 神経・筋疾患	19	18	13
11 慢性消化器疾患	14	13	12

食肉検査

1) と畜検査

と畜場法第 14 条に基づき四日市市食肉センターに搬入された牛、豚などの全頭検査を実施しています。人畜共通感染症等の疑いがある時は、枝肉内臓等を保留して病理、微生物、理化学等の精密検査を実施し合否判定を行っています。

と畜検査頭数

年 度	牛（頭）	豚（頭）
平成 23 年度	5, 1 2 2（とく※ 19 含む）	8 3, 6 2 5
平成 22 年度	5, 9 8 5（とく※ 3 含む）	8 4, 2 1 9
平成 21 年度	5, 6 2 8（とく※ 9 含む）	8 2, 8 6 0

※とく…1 歳未満の牛のこと

2) 食鳥検査

食鳥処理事業の規制及び食鳥検査に関する法律第 38 条に基づき実施される事業であり、認定小規模処理施設で処理される食鳥肉における安全性の確保並びに処理施設の監視指導を行っています。

	平成23年度	平成22年度	平成21年度
認定小規模処理施設数(ヶ所)	6	6	6
監視件数(件)	14	14	14
収去検査件数(件)	8	8	8

3) 食肉安全対策

食肉処理工程、枝肉及び冷蔵庫等の細菌汚染調査を行い検査結果に基づき、と畜場の衛生指導及び従業員の衛生教育(衛生講習会)を年2回実施しています。

(件)

検査項目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
腸管出血性大腸菌(O157)	185	100	208
サルモネラ	331	187	328
一般生菌数	463	355	489
大腸菌群数	463	355	489
合計	1,442	997	1,514

試験検査

1) 牛海綿状脳症(BSE)検査

平成13年10月18日からと畜場に搬入され食肉処理される全ての牛についてBSEの検査を実施しています。まず迅速スクリーニング検査(一次検査)を行い、そのうちBSEが疑われる検体について厚生労働省に報告し、国の機関で確認検査(二次検査)を実施しています。

2) 畜水産食品残留有害物質検査

食肉及び鶏肉の残留抗菌性物質の検査を実施しています。その結果に基づき家畜保健衛生所と協力して、生産者に抗菌性物質などの適正使用を指導し、安全な食肉の供給を図っています。

(件)

検査項目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
抗生物質	472	543	603
合成抗菌剤	41	40	30
テトラサイクリン類	40	40	30
内部寄生虫薬	16	16	16
農薬	10	10	10
合計	579	649	689

衛生検査

1) 食品衛生関連検査

○食品収去 規格基準検査(生食用魚介類、魚肉練り製品、生食用かき、食肉製品、冷凍食品)

○食品収去 指導基準検査(豆腐、生菓子、調理ご飯、調理パン、惣菜)

検体種別	検体数	検査項目数	内訳							
			一般細菌数	大腸菌群数	大腸菌	黄色ブドウ球菌	サルモネラ	ビブリオ	最確数 ゼブリオ	最確数 大腸菌
生食用魚介類	10	30	10	0	10	0	0	0	10	0
生食用かき	2	6	2	0	0	0	0	0	2	2
魚肉練り製品	10	10	0	10	0	0	0	0	0	0
食肉製品	10	28	0	0	10	9	9	0	0	0
冷凍食品	10	20	10	8	2	0	0	0	0	0
豆腐	10	20	10	0	10	0	0	0	0	0
洋菓子	31	124	31	31	0	31	31	0	0	0
和菓子	32	96	32	32	0	32	0	0	0	0
調理ご飯	37	148	37	0	37	37	37	0	0	0
漬物	10	20	0	0	10	0	0	10	0	0
生めん	8	24	8	0	8	8	0	0	0	0
ゆでめん	12	36	12	12	0	12	0	0	0	0
惣菜	70	280	70	0	70	70	70	0	0	0
計	252	842	222	93	157	199	147	10	12	2

※大腸菌とは、糞便の汚染指標菌の一種。

※黄色ブドウ球菌とは、食品衛生管理の汚染指標菌の一種。

※サルモネラとは、卵、食肉等の食品衛生管理の汚染指標菌の一種。

※ビブリオとは、魚介類等の食品衛生管理の汚染指標菌の一種。

○食中毒及び有症苦情の微生物検査

月	日	検出菌またはウイルス他	検査実施数	内 訳			
				食品	便	吐物	フケリ
4	16	カンピロバクタ・ジェジュニ	324		18		
	17	カンピロバクタ・ジェジュニ	108		6		
	18	カンピロバクタ・ジェジュニ	5		5		
	19	陰性	10				10
	26	ノロウイルス GII	4		4		
5	20	サルモネラ・エンテリティディス	20		1		
8	8		70				10
9	5	陰性	3		3		
	6	陰性	2		2		
	26	衛生管理指標不適合	4	1			
10	3	陰性	34		2		
	5	衛生管理指標不適合	8	2			
	24	陰性	36		2		
	24	陰性	18		1		
11	6	陰性	20		1		
1	13	ノロウイルス GII	36		2		
	30		60				10
3	7	ノロウイルス GII	18			1	
	8	ノロウイルス GII	18		1		
	12	陰性	34	2			
	12	ノロウイルス GII	18		1		
	14	ノロウイルス GII	18		1		
	16	ノロウイルス GII	18		1		
	18	ノロウイルス GII	18		1		
	23	ノロウイルス GII	72		4		
合計			976	5	56	1	30

- ※カンピロバクタ・ジェジュニとは、食肉（とくに鶏肉）等を原因食品とする食中毒起因菌の一種。
 ※サルモネラ・エンテリティディスとは、鶏卵関連食品等を原因食品とする食中毒起因菌の一種。
 ※ノロウイルス GII とは、冬季に発生する感染性胃腸炎の原因ウイルスの一種。

2) 感染症関連検査

○感染症血清学的検査

(件)

月	検体数	検査実施数	内 訳				
			HIV	HBs	HCV	STS	TP
4	23	114	23	22	23	23	23
5	29	141	29	28	28	28	28
6	42	207	41	42	42	41	41
7	29	141	29	28	28	28	28
8	34	158	32	32	32	31	31
9	18	88	18	17	17	18	18
10	27	132	26	27	27	26	26
11	21	105	21	21	21	21	21
12	36	172	36	34	34	34	34
1	34	170	34	34	34	34	34
2	38	190	38	38	38	38	38
3	44	218	44	43	43	44	44
合計	375	1,836	371	366	367	366	366

○感染症発生時及び検疫通報時の防疫検査

(件)

月	検査実施数	項 目				検体種別	
		腸管出血性大腸菌	ノロウイルス	赤痢	コレラ	便	菌株
9	19	19	0			19	0
10	2	2	0			2	0
11	34	34	0			34	0
1	5	0	5			5	0
2	2	2	0			2	0
3	6	2	2	1	1	3	1
計	68	59	7	1	1	65	1

国民健康保険

● 事業の概要

本市の国民健康保険は、地域医療保険として市民の健康保持と福祉の向上に大きな役割を果たしてきました。しかし、高齢化の進行と増加する医療費、また他の保険と比較して年金受給者や低所得者の加入割合も高いため、国民健康保険の財政はひっ迫した状況にあります。

このような中、自らの健康に関心をもち、健康な毎日を送っていただくために、特定健康診査・特定保健指導の周知に努め、受診率等の向上に取り組むとともに、脳ドックや市の保健所（健康づくり課）が実施する各種がん検診などへの助成を行い、生活習慣病などの疾病予防活動を進め、国保加入者の健康維持・向上に努めています。

● 平成 24 年度当初予算

(単位：千円)

歳入		歳出	
国民健康保険料	7,792,334	総務費	278,855
一部負担金	4	保険給付費	19,780,690
国庫支出金	5,710,312	後期高齢者支援金等	3,559,570
療養給付費等交付金	1,183,033	前期高齢者納付金等	10,442
前期高齢者交付金	7,932,159	老人保健拠出金	204
県支出金	1,131,122	介護納付金	1,509,250
共同事業交付金	2,712,582	共同事業拠出金	3,377,435
財産収入	2,007	保健事業費	287,176
繰入金	2,288,357	基金積立金	2,007
繰越金	46,771	公債費	100
諸収入	56,819	諸支出金	46,771
		予備費	3,000
合 計	28,855,500	合 計	28,855,500

● 加入状況（実績）

(各年度末現在)

年度	人口	世帯数	国保 世帯数	被 保 険 者 数			
				老人	一般	退職者	合計
H 19	313,495	124,587	54,859	22,401	53,409	24,350	100,160
H 20	313,963	126,231	42,927	—	71,976	4,254	76,230
H 21	313,890	127,082	42,401	—	69,993	4,517	74,510
H 22	314,162	128,253	42,369	—	68,903	4,951	73,854
H 23	313,683	129,102	42,494	—	68,218	5,246	73,464

● 保険給付状況（実績）

年度		一人当たり 療養の給 付・療養費 用額 (円)	療養の給付 療養費保険 者負担・ 老人拠出金 (千円)	高額療養費 高額介護合算療養費		出産育児一時金		葬祭費	
				件数 (件)	金額 (千円)	件数 (件)	金額 (千円)	件数 (件)	金額 (千円)
H 19	一般	218,323	8,771,645	12,317	967,524				
	退職	383,206	7,159,907	8,460	504,628				
	老人	807,831	4,504,923						
	全体	388,093	20,436,474	20,777	1,472,152	441	154,300	1,741	87,050
H 20	一般	266,976	14,095,360	22,531	1,451,235				
	退職	509,618	1,695,408	3,388	218,364				
	老人	—	749,889						
	全体	281,479	16,540,657	25,919	1,669,598	393	139,110	519	25,950
H 21	一般	282,412	14,685,040	25,878	1,596,589				
	退職	369,992	1,209,705	1,282	127,949				
	老人	—	108,508						
	全体	287,802	16,003,252	27,160	1,724,538	361	143,110	434	21,700
H 22	一般	295,783	15,061,672	26,442	1,711,641				
	退職	351,354	1,203,477	1,477	159,046				
	老人	—	22,454						
	全体	299,425	16,287,602	27,919	1,870,687	324	135,300	432	21,600
H 23	一般	305,316	15,341,783	27,303	1,733,235				
	退職	360,724	1,381,127	1,690	186,196				
	老人	—							
	全体	309,404	16,722,910	28,993	1,919,431	350	146,460	446	22,300

療養の給付 — 医師が診療を必要と認めた治療費の現物給付（業務上の疾病を除く）。
診療、薬剤、治療材料、処置、その他の治療、看護。

療養費 — 緊急その他やむを得ない事情で療養の給付を受けることが困難な場合等の給付。保険証が使えなかったとき、柔道整復師・鍼灸マッサージの施術、看護、移送、治療用装具。

高額療養費 — 医療費負担が一定の限度額を超えたとき、申請により、超えた額を支給（該当者には事前に通知）。

高額介護合算療養費

— 医療保険と介護保険それぞれの限度額を適用後の年間の合計自己負担額が一定の限度額を超えたとき、超えた額を支給。

出産育児一時金 — 被保険者が出産したとき 420,000 円（産科医療補償制度対象外出産の場合 390,000 円）を支給。

葬祭費 — 被保険者が死亡したとき 50,000 円を葬祭執行者に支給。

● 保険料賦課収納状況（平成 23 年度実績）

		年 間			
		医 療 分	後 期 支 援 分	介 護 分	
賦 課 期 日		4 月 1 日			
保 険 料 率	所 得 割	1000 分 の 77	1000 分 の 14	1000 分 の 22	
	均 等 割	33,000 円	6,800 円	9,900 円	
	平 等 割	24,000 円	4,900 円	7,200 円	
保 険 料 最 高 限 度 額		500,000 円	130,000 円	100,000 円	
納 付 回 数 ・ 納 期 日		9 回 ・ 毎 月 末 （ 1 2 月 の み 2 5 日 ）			
納 付 方 法		自 主 納 付 ・ 口 座 振 替 ・ 特 別 徴 収 （ 年 金 ）			
保 険 料 年 平 均 負 担		1 世 帯 当 たり	190,225 円	1 人 当 たり	109,694 円
		（ 医 療 分 ）	144,707 円		83,446 円
		（ 後 期 分 ）	28,755 円		16,582 円
		（ 介 護 分 ）	—		26,660 円

● 保険料軽減状況＜医療分＞（平成 23 年度実績）

7 割 軽 減 …… 前 年 所 得 が 33 万 円 以 下 の 世 帯 に 対 し 保 険 料 の 均 等 割 及 び 平 等 割 の 7 割 を 減 額
10,163 世 帯 14,370 人 495,201,000 円

5 割 軽 減 …… 前 年 所 得 が 33 万 円 +24.5 万 円 × 被 保 険 者 数 (納 付 義 務 者 を 除 く) 以 下 の 世 帯 に
対 し、 保 険 料 の 均 等 割 及 び 平 等 割 の 5 割 を 減 額
1,728 世 帯 4,252 人 89,412,000 円

2 割 軽 減 …… 前 年 所 得 が 33 万 円 +35 万 円 × 被 保 険 者 数 以 下 の 世 帯 に 対 し、 保 険 料 の 均 等 割
及 び 平 等 割 の 2 割 を 減 額
4,555 世 帯 8,132 人 74,155,200 円

● 保険料軽減状況＜後期分＞（平成 23 年度実績）

7 割 軽 減 …… 前 年 所 得 が 33 万 円 以 下 の 世 帯 に 対 し 保 険 料 の 均 等 割 及 び 平 等 割 の 7 割 を 減 額
10,163 世 帯 14,370 人 101,732,225 円

5 割 軽 減 …… 前 年 所 得 が 33 万 円 +24.5 万 円 × 被 保 険 者 数 (納 付 義 務 者 を 除 く) 以 下 の 世 帯 に
対 し、 保 険 料 の 均 等 割 及 び 平 等 割 の 5 割 を 減 額
1,728 世 帯 4,252 人 18,387,825 円

2 割 軽 減 …… 前 年 所 得 が 33 万 円 +35 万 円 × 被 保 険 者 数 以 下 の 世 帯 に 対 し、 保 険 料 の 均 等 割
及 び 平 等 割 の 2 割 を 減 額
4,555 世 帯 8,132 人 15,241,670 円

● 保険料軽減状況＜介護分＞（平成 23 年度実績）

7 割 軽 減 …… 前 年 所 得 が 33 万 円 以 下 の 世 帯 に 対 し 保 険 料 の 均 等 割 及 び 平 等 割 の 7 割 を 減 額
4,626 世 帯 5,201 人 59,357,970 円

5 割 軽 減 …… 前 年 所 得 が 33 万 円 +24.5 万 円 × 被 保 険 者 数 (納 付 義 務 者 を 除 く) 以 下 の 世 帯 に
対 し、 保 険 料 の 均 等 割 及 び 平 等 割 の 5 割 を 減 額
960 世 帯 1,341 人 10,093,950 円

2 割 軽 減 …… 前 年 所 得 が 33 万 円 +35 万 円 × 被 保 険 者 数 以 下 の 世 帯 に 対 し、 保 険 料 の 均 等 割
及 び 平 等 割 の 2 割 を 減 額
2,076 世 帯 2,621 人 8,179,020 円

● 保健事業

①特定健康診査・特定保健指導

…………「高齢者の医療の確保に関する法律」の改正により医療保険者に実施が義務付けられた特定健康診査及び特定保健指導を平成 20 年度から実施

特定健康診査…生活習慣病の発症原因とされるメタボリックシンドロームに着目した健康診査
(対象年齢 40～74 歳)

年 度	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24
目標受診率	43.0 %	53.1 %	60.0 %	63.7 %	65.0 %
受診率	40.4 %	39.8 %	40.3 %	43.5 %	

(※受診率は法定報告より。ただし、H23 は見込み。)

特定保健指導…特定健康診査の結果により健康の保持に努める必要がある者に対し、生活習慣を改善するための保健指導で、改善の必要度に応じ「動機づけ支援」「積極的支援」を実施

年 度	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24
目標受診率	25.0 %	30.0 %	35.0 %	40.0 %	45.0 %
受診率	0.6 %	29.7 %	13.4 %	22.9 %	

(※受診率は法定報告より。ただし、H23 は見込み。)

②脳ドック……………脳梗塞や脳卒中の脳疾患の予防と早期発見を狙いとして、脳ドック受診者に対して助成

年 度	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23
受診者数	95 人	77 人	93 人	144 人	116 人
補助額	16,210 円	10,000 円	10,000 円	10,000 円	10,000 円

③がん検診等の一部負担金助成

…………疾病の予防、早期発見・早期治療を目的として保健所が実施する各種がん検診及び歯科検診を、四日市市国民健康保険の被保険者が受診する場合に一部負担金助成を実施

後期高齢者医療制度

● 事業の概要

後期高齢者医療制度は、75歳以上の人（障害認定を受けた65歳以上75歳未満の人で、希望する人を含む）が、病気・けがをしたときに必要な給付を受けるための医療制度として、平成20年4月から発足しました。都道府県ごとに全市町村が参加する後期高齢者医療広域連合により運営されています。また、参加市町村も、後期高齢者医療保険加入者の窓口として、一部業務を担当しています。

三重県後期高齢者医療広域連合

……資格の管理、医療を受けたときの給付、保険料の賦課・決定、保健事業等の業務
市町……保険料の徴収や資格給付に関する申請受付業務

● 平成24年度当初予算

(単位：千円)

歳入		歳出	
後期高齢者医療保険料	2,197,850	総務費	101,720
使用料及び手数料	1	後期高齢者医療広域連合納付金	4,695,427
寄付金	1	公債費	50
繰入金	2,581,297	諸支出金	5,203
繰越金	1	予備費	500
諸収入	23,750		
合 計	4,802,900	合 計	4,802,900

● 加入状況

(年度末現在)

年度	人口	世帯数	被保険者数
H 20	313,963	126,231	28,671
H 21	313,890	127,082	29,827
H 22	314,162	128,253	31,068
H 23	313,683	129,102	31,945

国民年金

● 事業の概要

平成16年の社会保険庁改革から始まった年金記録問題に関連して、平成19年夏から平成20年10月にかけて社会保険庁より全国民あてに、年金の加入記録確認のための「ねんきん特別便」が発送されました。また、年金加入記録に加え保険料納付記録及び将来受け取る年金額（見込み）も記載した「ねんきん定期便」が、平成21年度より年1回誕生月に発送されています。

また、平成23年2月28日からはインターネットによる「ねんきんネット」サービスが開始され、最新の年金記録を確認することができるようになりました。

一方で、婚姻期間中の年金記録を当事者間で分割する「離婚時の厚生年金分割」制度が平成19年度に一部導入され、20年度には「第3号被保険者期間に係る厚生年金の分割」制度が導入されました。こうした中、平成22年1月には公的年金制度の適正な運営と国民の信頼確保を図るため、社会保険庁が廃止され国（厚生労働大臣）から委任・委託を受けて公的年金業務の運営を行う日本年金機構が発足しました。

自分の年金記録に関心を持つ市民が今まで以上に増加し、また年齢や立場の違う市民ひとりひとりが今後の年金受給を真剣に考える意識が高まっています。年金係では、市民の年金権の確保のため、制度の周知と普及に努めています。

● 基礎年金

- ①老齢基礎年金……………原則として最低25年の納付又は免除を要する
(年齢により短縮される)

平成24年度支給額 786,500円(満額)

- ②障害基礎年金……………加入期間3分の2以上の納付又は免除を要する

平成24年度支給額 1級 983,100円
2級 786,500円

- ③遺族基礎年金……………加入期間3分の2以上の納付又は免除を要する

平成24年度支給額

	妻に支給される額	子に支給される額
子が1人の時	1,012,800円	786,500円
子が2人の時	1,239,100円	1,012,800円
子が3人の時	1,314,500円	1,088,200円

[3人目以降1人につき75,400円加算]

- ④寡婦年金……………国民年金25年以上納付(又は免除)した夫が死亡した時、妻が60才から65才になるまで受給

平成24年度支給額 夫のうけるべき基礎年金額×3/4

- ⑤死亡一時金……………老齢基礎年金や障害基礎年金を受けずに死亡し、遺族が遺族基礎年金を受けられない時

平成 24 年度支給額

保険料を納めた期間	金 額
36 ヶ月以上 180 ヶ月未満	120,000 円
180 ヶ月以上 240 ヶ月未満	145,000 円
240 ヶ月以上 300 ヶ月未満	170,000 円
300 ヶ月以上 360 ヶ月未満	220,000 円
360 ヶ月以上 420 ヶ月未満	270,000 円
420 ヶ月以上	320,000 円

● 被保険者の種類

- ・ 第 1 号被保険者（国民年金保険料を納める人）
自営業や農業など厚生年金、共済組合に加入していない人
- ・ 第 2 号被保険者（給料から年金保険料を天引）
サラリーマン、OL など会社や役所へ勤務し、厚生年金、共済組合に加入している人
- ・ 第 3 号被保険者（国民年金保険料を払わなくても納付している扱いになる）
サラリーマンに扶養されている妻（又は夫）
（扶養されていない場合は、第 1 号被保険者となる）

● 国民年金保険料の推移

（単位：円）

年 度	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24
保険料（月額）	14,410	14,660	15,100	15,020	14,980

※付加年金加入者は 400 円加算

● 福祉年金

- ① 老齢福祉年金…明治 44 年 4 月 1 日以前生まれで公的年金を受けられない人が 70 才から受給
平成 24 年度支給額 402,900 円
- ② 障害基礎年金…障害福祉年金から移行、受給権者の所得により全部支給停止の場合がある
平成 24 年度支給額 1 級 983,100 円
2 級 786,500 円

● 適用状況

（単位：人）

年度	第 1 号 被保険者	任意 加入者	第 3 号 被保険者	合計	保険料免除者	
					法定	申請
H 19	42,326	706	30,632	73,664	2,276	7,523
H 20	41,623	717	30,046	72,386	2,289	7,015
H 21	41,461	696	29,525	71,682	2,446	7,861
H 22	40,529	689	29,281	70,499	2,554	7,452
H 23	39,491	638	28,825	68,954	2,654	7,926